

# 国文学研究資料館蔵マイクログ資料による私家集奥書集成(二)

## 菅原道真(素性)

久保木 秀夫  
野 本 瑠 美

前号に引き続き、私家集の奥書類を翻刻していく。今回は菅原道真・大江千里・素性の三歌人が対象となる。特に道真については、いわゆる道真仮託家集類の研究に寄与するところ少なくないかと思われる。なお凡例に変わりはないので前号を参照されたい。

### 13 菅原道真「書目13・大成新編増補」

〈奥書・刊記等アリ〉

(1) 東京大学文学部国文学研究室(本居帙一〇八一―九八五)

【マイクログ】四一五八一―(一)／紙焼写真C三三〇五／写二冊／外題「聖廟集」／内題「聖廟御詠」／天神様御作十二時之御詠・聖廟御詠など都合

【翻刻】

A (聖廟御詠末尾)

此御詠ハ應安八年二月廿五日花山院僧正菅家ノ

一流秘書御傳受之御作不審條々被尋就之菅

宰相開家本勘出之以真本書寫之訖同雖及

撰又之相傳所望依難去出之貴方又他所不

可被出此本秘々而已 永之

康應元年七月廿五日書写之應永七年十二月十一日書写之  
父安三曆八月七日書写之

【備考】

A 「花山院僧止」：花山院長親。生年未詳。正長二年1429。南朝の後村上。

長慶・後龜山天皇に勤仕、明德三年1392出家。耕雲と号す。

(2) 東京大学文学部国文学研究室（本居帙一〇八一八九五）

【マイクロ】四一五八一—（一—）／紙焼写真C三二〇五／写一冊／外題

「聖廟集」／内題ナシ／聖廟御詠・天神様御作十二時之御詠などと合

【翻刻】

A（巻頭）

御詠ハ五日今河殿依夢想掘出歌也

B（末尾）

于時康應第一己 曆仲冬中旬五天書寫之

【備考】

A 「今河殿」：今川了俊か。嘉曆元年1326～応永二十一年1414頃。

(3) 東京大学文学部国文学研究室（本居帙一〇八一八九五）

【マイクロ】四一五八一—（一—）／紙焼写真C三二〇五／写一冊／外題

「聖廟集」／内題「天神様御作十二時之御詠」／聖廟御詠などと合

【翻刻】

A（十二時之御詠末尾）

御詠一冊事任上件奥書之旨預納匣底雖不

出坊室依離去所望子細神慮不憚惡筆奉

摸寫之者也若於于拜見之砌者々深銘心肝

弥可奉低神騰之者也

于時長祿肆年仲冬下旬之比録之也

北野隠士法印権大僧都禪盛在判

為禪淨坊禪果上座御房書寫之比此與云々

右之本書加様有

【備考】

A 「北野隠士法印権大僧都禪盛」：生没年未詳。室町時代中期の人。北

野天満宮祠官。密乘院に住す。寛正三年1462御師職に任じられる。

「禪淨坊禪果」：逆浄房禪果か。生没年未詳。北野天満宮祠官。『北

野社家日記』長享二年1488～永正三年1506の記事に名が見える。

(4) 東京大学文学部国文学研究室（本居帙一〇八一八九五）

【マイクロ】四一五八一—（一—）／紙焼写真C三二〇五／写一冊／外題

「聖廟集」／内題「聖廟御詠」／聖廟御詠・天神様御作十二時之御詠な

どと合

【翻刻】 合集された歌集については13菅原道真(1)～(3)(5)参照

(5) 東京大学文学部国文学研究室（本居帙一〇八一八九五）

【マイクロ】四一五八一—（一—）／紙焼写真C三二〇五／写一冊／外題

「聖廟集」／内題「聖廟御詠」／聖廟御詠・天神様御作十二時之御詠など都合

【翻刻】

A (巻末)

明應九年三月二日大雨の夜世間門く書し哥

梅あらはしつか伏屋の門までも我立よらんあくましりそけ

(6) 岡山大学附属図書館池田家文庫 (P九二―一三二九)

【マイクロ】二二―一四―四／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「和哥之手本」

／内題「菅家百首」／京極黄門定家卿藤河百首題・定家卿小倉山庄の色

紙ことかきの賦・定家卿百首寄名所・細川侍従兼兵部大輔源藤孝入道幽

齋正二位玄旨法印詠歌百首之題などと合

【翻刻】

A (表紙)

此書當時求得安からず大せつニ可致事

大橋神泉

B (同)

青蓮院宮御覚許日本第一

足守能筆松本源次兵衛真筆

C (定家卿小倉山庄の色紙ことかきの賦末尾)

右三十首 定家卿小倉山庄の色紙ことかき

の賦なり享保乙巳の秋七月書畢入木雪濤軒

【備考】

A 「大橋神泉」…未詳。

B 「青蓮院宮」…未詳

「松本源次兵衛」…未詳。「足守」は足守藩(備中賀陽郡)のことか。

C 「雪濤軒」…未詳。

(7) 岡山大学附属図書館池田家文庫 (九二―一三二〇)

【マイクロ】二二―一五―二(一)／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「聖

廟和歌 上」／内題「聖廟御詠」／上巻、天神御作十二時之御詠など

合

【翻刻】

A (聖廟和歌末尾)

此御詠は應安八年二月廿五日花山院僧正

菅家之一流秘書御傳受之御作不審條々

被尋就之菅幸相開家本勘出之以真本

写之訖同雖及撰文之相傳所望依難去

出之貴方又他所不可被出此本秘々而已

康應元年七月廿五日書写之

【備考】

A 「花山院僧正」↓13道真(1)

(8) 岡山大学附属図書館池田家文庫 (九二―一三二一三〇)

【マイクロ】二二―一五―二(一三) / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題「聖廟和歌 上」 / 内題ナシ / 上巻、聖廟御詠・天神御作十二時之御詠と合

【翻刻】

A (巻頭)

御詠廿五日今川殿依夢想被掘出哥也

B (末尾)

于時康應第一<sup>己</sup>曆仲冬中旬五天書写之

【備考】

A 「今川殿」 ↓ 13道真<sup>②</sup>

(9) 岡山大学附属図書館池田家文庫(九一・二三―三三〇)

【マイクロ】二二―一五―二(一三) / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題「聖廟和歌 上」 / 内題「天神御作十二時之御詠」 / 上巻、聖廟御詠などと合

合

【翻刻】

A (十二時之御詠末尾)

御詠一冊事任上件奥書之旨鎮納<sup>聖</sup>匣底

雖不出坊室依難去所望子細神慮不憚惡

筆奉摸写之者也若於于拜見之砌者々深

銘心肝弥可奉低神臈之者也

于時長祿肆歲仲冬下旬之比録之也

北野隱士法印權大僧都禪盛在判

為蓮淨坊禪臬上座御房書写之此與々々<sup>(マ)</sup>

右ノ本書ケ様ニ有

【備考】

A 「北野隱士法印權大僧都禪盛」「蓮淨坊禪臬」 ↓ 13道真<sup>③</sup>

(10) 岡山大学附属図書館池田家文庫(九一・二三―三三〇)

【マイクロ】二二―一五―二(一四) / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題「聖廟和歌 下」 / 内題「聖廟御詠」 / 下巻、聖廟御詠・御詠廿五首・十二時御詠と合

【翻刻】 合集された歌集については13菅原道真<sup>(7)</sup>、(9)、(11)、(13)参照

(11) 岡山大学附属図書館池田家文庫(九一・二三―三三〇)

【マイクロ】二二―一五―二(一五) / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題「聖廟和歌 下」 / 内題「聖廟御詠」 / 下巻、聖廟御詠・御詠廿五首・十二時御詠と合

【翻刻】

A (聖廟御詠末尾)

此御詠者應安八年二月二十五日花山院僧正管家之

一流秘書御傳受之時御作不審條々被尋就固難及

誓文相傳所望依難去出之貴方又地所不可

被書此本秘而已求之

康應元年七月廿日書写之

應永七年十二月十一日書写之

文安三曆八月七日書写之

【備考】

A 「花山院僧正」 ↓ 13道真(1)

(12) 岡山大学附属図書館池田家文庫(九一一・二二二・三三〇)

【マイクロ】二二一・五二二(一六) / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題「聖廟和歌 下」 / 内題「御詠廿五首」 / 下巻、聖廟御詠・十二時御詠と合

【翻刻】

A (内題下)

今川殿依夢想被掘出御哥也

【備考】

A 「今川殿」 ↓ 13道真(2)

(13) 岡山大学附属図書館池田家文庫(九一一・二二二・三三〇)

【マイクロ】二二一・五二二(一七) / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題「聖廟和歌 下」 / 内題「十二時御詠」 / 下巻、聖廟御詠・御詠廿五首と合

【翻刻】

A (巻末)

明應九年三月二日大雨の夜世間門くくに

書し哥

梅あらはしつか伏やの門までも我立よらんあくましりそけ

【備考】 十二時御詠の後に、御詠二十五首が増補されている。

(14) 岡山大学附属図書館池田家文庫(貫九二一・九)

【マイクロ】二二一・五二三 / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題「菅家御詠集全」 / 内題「菅家御詠集」

【翻刻】

A (巻末)

菅家御詠集一冊憑于津村

由直之手写之了他日欲考

異同叵索无間

寛文壬寅春二月吉辰 如松子誌

【備考】

A 「津村由直」…未詳。刈谷市中央図書館村上文庫蔵「予章記」の万治二年本奥書に如松子と「大坂之産津村源一郎由直」の名が見える。同一人物か。

「如松子」…福住道祐。寛永二年<sup>1625</sup>〜元禄二年<sup>1689</sup>。

(15) 北海学園大学附属図書館北鷲文庫(文三三二)

【マイクロ】一六一・七一六 / 紙焼写真C二五〇三 / 写一冊 / 外題「天満宮百首」 / 内題「天満宮百首」(首題)・「菅公御神詠一百首」(扉題)

【翻刻】

A (巻末)

右御詠歌毎日一編詠人常恒天神守護令現世安穩

後生安楽不可疑

御神託秘蔵云々穴賢

明治十八年乙酉八月廿八日

平時雍謹書

B (同)

菅原の神の詠み給まひたりとなむいふ此百首の歌迄

げにをもしろくをかしけれどまさしく此神の

詠みけん歌とも覚えぬふしあるが上に或人の

かきうつしたる本にてあやしうかき避りし誤りも

しつらむといふかしなければうつし取りて後の考

へとなすになん

明治二十あまり九とし

ふみ月二十日あまり九日

■夢庵

【備考】

A 「平時雍」…河内時雍(天保二年1832〜明治二四年1891)か。讃岐国の人。

B 「■夢庵」…未詳。

(16) 内閣文庫(二〇一四四五)

【マイクロ】一九一二六一九／紙焼写真C四九九八／写一冊／外題「菅」

原贈太政大臣歌集／内題「菅原贈太政大臣歌集」

【翻刻】

A (序文)

月光似鏡無明罪是管公在謫之所作自述

其冤也余於其集亦言之学者每自誇以眼光

似鏡而於公集也無辨其魚目与趙璧駁然

間操係乎後人偽造豈非冤哉伴君宏覽

彊記菅深愛焉旁按廣證膺之汰而籍之掃

論辨極明如燃犀照水百怪無所得而逃也嗚

呼公之徳与才信於海内廟食百世雖学

語之兒猶知其當仰而敬之然而使其集蒙

冤於千載是誰之責歟世之苟讀書者觀伴

君之斯举也豈不愧作哉亦豈不喜躍哉

然則余之忘僭而敢序何哉記其愧与喜也

已文政庚寅冬十一月 海野公豫謹識

B (伴直方自序)

此まうちきみの哥集といへる

うつしまきこれかれとある

を見しにいかなる人のし

わさにかあらんあたし人の

うたをしるししひてこの君

のなりとし又さあたし哥を

いさゝかつくりかへてのせたるたくひ  
 おほくてなかくに此君の御名  
 をくたしうひまなひをまとは  
 しむるさいたくにくむへき  
 事になむされはこたひみ  
 よくの撰集をはしめくさ  
 くの哥ふみに出てまさ  
 しく此君のとしるきをのみ  
 えりつとへはきおのれかおもひ  
 よる事をかしら書にくはへて  
 一卷となしぬかくてそよの人  
 の耳にふれたる哥のひか傳へ  
 なるをしり此きみの哥の  
 あはれにみやひかなる  
 姿をもしりうへきに  
 なむ文政といふとしはし  
 まりて十あまり三とせの春  
 わか草のいやおひ月のしもの  
 十日にいまいつかおきての日  
 筆をそむ

伴宿祢直方

【備考】道真公譜・引用書目・附録を付す

A 「海野公豫」…海野石窓か。天明七年1787～安政六年1859。掛川藩儒。  
 B 「伴宿祢直方」…寛政二年1790～天保十三年1842。

(17) 内閣文庫(二〇一—四四三)

【マイクロ】一九一二六—一〇／紙焼写真C四九九九／写一冊／外題ナシ／内題「瑠璃壺」

【翻刻】

A (巻末)

右被請二條殿撰瑠璃壺と云

右百首北野神詠にて以真筆かき給へり山門

中堂薬師え奉納し給といへり

B (同)

本云右一冊借請于園少将基萬朝臣令書写了

【備考】

B 「園少将基萬朝臣」…文化十三年1816～天保十二年1841。天保五年1844右少将、同十年1839正四位下。

(18) 内閣文庫(二〇一—五七二)

【マイクロ】一九一二六—一三／紙焼写真C五〇〇一／写一冊／外題「菅家金玉抄」／内題「菅家金玉抄卷第一(第二～第十四)」

【翻刻】

A (巻末)

右道實公歌非凡心所及自今以後更無此風  
夕出隱室家之雖分泌分而憚見書而已

于時文安五年林鐘十九日 繼長在判

B (同)

菅贈相國家集抄一部十五冊世之所希有  
也頃間得此書而觀収無止密繕写之深収  
函底以備家藏之重宝云爾

【備考】

A 「繼長」…高辻(菅原)。応永二十一年<sup>1414</sup>〜文明七年<sup>1475</sup>。

(19) 宮内庁書陵部(五〇一―二五二)

【マイクロ】二〇―二四―一六／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「菅家御集」

／内題「聖廟集 菅家御集」

【翻刻】

A (見返し)

菅家 海量

謹筆

B (序)

幸弘雅士のいとけなき比より

北野の聖廟を信じけるか長となりて増く

崇敬の心切なりされはよろつの事

此御神にまうして願ひとして成就せずと

いふ事なしとかやさいつ比あつまに下りし  
時より鎌倉の聖廟に月毎に詣て、

をこたらずはや八ツの春秋を経たりことし

古郷に帰ると告るに何をか餞せん元より

頭陀の身なれば何かあらん正に此御集を

書写してあたにこれをしも身に随へて

或は吟し読し奉りなは実にかしこき御ま

もりなるへしと思ふのみ

乙亥の冬十月

東武の海翁《花押》

C (卷末)

已上四百六拾有五首

写本ニ云

聖廟御詠歌以北野寶成院明順自筆之本

書写之

長享三年己酉正月初四日

右筆慈金五十六歳

D (同)

以右之本宝曆乙亥秋九月海翁拜写

【備考】

A 「海量」…享保十八年<sup>1733</sup>〜文化十四年<sup>1817</sup>。

B 「幸弘雅士」…未詳。



「東武の海翁《花押》」D「海翁」…A「海量」に同じ。

C「北野寶成院明順」…生没年未詳。室町時代中期の北野天満宮祠官。

『北野社家日記』には永正十一年1514頃まで、その名が見られる。

「慈金」…永享五年1434〜没年未詳。

(20) 宮内庁書陵部(五〇一―二五二)

【マイクロ】二〇―二四―一七／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「菅家御集」

／内題「菅家御詠」

【翻刻】

A(巻末)

此一冊は竹内良恕二品親王之

自筆以本写之畢

寛永十一年卯月七日 《花押》

【備考】

A「竹内良恕二品親王」…曼殊院二十八世門跡。天代座主。天正二年1574

〜寛永二十年1643。

「《花押》」…未詳。

(21) 宮内庁書陵部(鷹六九)

【マイクロ】二〇―六四三―三／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「歌仙落書

／新撰髓脳／瑠璃壺」／内題「瑠璃壺」／歌仙落書、新撰髓脳と合

【翻刻】

A(巻末)

右被請二條殿撰瑠璃壺と云

右百首北野神詠にて以真筆かき給へり山門

中堂薬師え奉納し給といへり

B(同)

這一帖借乞大原三位重徳卿書写

記 嘉永四年十二月下流 三十一歳

柚大納言《花押》

C(同)

癸丑初夏令写

《花押》

【備考】

A「二條殿」…未詳。

B「大原三位重徳卿」…享和元年1801〜明治十二年1879。三位であったのは、

天保二年1831従三位〜慶応三年1867。

「柚大納言《花押》」…徳大寺公純。文政四年1821〜明治十六年1883。嘉

永四年1851に権大納言、三十一歳。

C「《花押》」…鷹司政通(寛政元年1789〜明治元年1868)か。

(22) 国立歴史民俗博物館高松宮家本(H一六〇〇・五一八る函二四二)

【マイクロ】二二―一六一―一九(一)／紙焼写真C三七三／写一冊／外

題「天神御詠哥」／内題「天神御詠詞」／天神御詠詞と合

【翻刻】

A (末尾)

右一帖瑠璃之道と云

(23) 国立歴史民俗博物館高松宮家本 (H16001518る函二四二)

【マイクロ】二二一六〇一九(一三) / 紙焼写真C三七三 / 写一冊 / 外題「天神御詠哥」 / 内題「天神御詠調」 / 天神御詠調と合

【翻刻】 合集された歌集については13菅原道真(22)参照

(24) 国立歴史民俗博物館高松宮家本 (H16001519る函二四二)

【マイクロ】二二一七〇一(一二) / 紙焼写真C七四二 / 写一冊 / 外題「聖厩御詠」 / 内題「聖厩御詠」 / 御詠廿五首・十二時之御詠・御詠二十五首と合

【翻刻】

A (末尾)

此御詠者應安八年二月二十五日花山院僧正

菅家之一流秘書御傳受之御詠不審

條々就被尋固雖及誓文求之相傳所望依

難去出之貴方又他所不可被出此本秘而已

B (同)

康應元年七月廿日書写之

應永七年十二月十一日書寫之

文安三年八月七日書寫之

万治三年二月廿五日書寫之

【備考】

A 「花山院僧正」 ↓ 13道真(1)

(25) 国立歴史民俗博物館高松宮家本 (H16001519る函二四二)

【マイクロ】二二一七〇一(一二) / 紙焼写真C七四二 / 写一冊 / 外題「聖厩御詠」 / 内題「御詠廿五首」 / 聖厩御詠・十二時之御詠・御詠二十五首と合

【翻刻】

A (内題下)

今出河殿依夢想被堀秘哥也

【備考】

A 「今出河殿」…「今河殿」の誤写か。 ↓ 13道真(2)

(26) 国立歴史民俗博物館高松宮家本 (H16001519る函二四二)

【マイクロ】二二一七〇一(一三) / 紙焼写真C七四二 / 写一冊 / 外題「聖厩御詠」 / 内題「十二時之御詠」 / 聖厩御詠・御詠廿五首・御詠二十五首と合

【翻刻】 合集された歌集については13菅原道真(24)(25)(27)参照

(27) 国立歴史民俗博物館高松宮家本 (H16001519る函二四二)

【マイクロ】二二―一七―一（一四）／紙焼写真C七四二／写一冊／外題「聖唐御詠」／内題「御詠 二十五首」／聖唐御詠・御詠廿五首・十二時之御詠と合

【翻刻】

A（末尾）

明應九年三月二日大雨の夜世間門く

書し哥

梅あらは賤かふせやの門までも我立よらんあくましりそけ

(28) 国立歴史民俗博物館高松宮家本（H一六〇〇一五五七の函二八〇）

【マイクロ】二二―二二―一―一／紙焼写真C三八一／写一冊／外題「天神御詠」／内題「天神御詠百首」／「天神御詠」のうち／天神十二時御詠・天神御詠歌・天神御詠哥・菅家御詠と合

【翻刻】合集された歌集については13菅原道真(29) 〓(32)参照。

(29) 国立歴史民俗博物館高松宮家本（H一六〇〇一五五七の函二八〇）

【マイクロ】二二―二二―一―一／紙焼写真C三八一／写一冊／外題「天神御詠」／内題「天神十二時御詠」／「天神御詠」のうち／天神御詠百首・天神御詠歌・天神御詠哥・菅家御詠と合

【翻刻】

A（末尾）

住吉大明神御詠

ちりやすき桜の花をみむよりも千代をへぬき松をこそ見ぬ  
ちよを経てそのうち松はいかならん春つきせすは花も尽せし

B（同）

聞書

あすよりはあたに月日を送らしと思へはけふもはやくれにけり  
（以下十首ノ哥ヲ掲出）

【備考】

A 「子守大明神」：吉野水分神社のこと。吉野蔵王権現の眷属神。

(30) 国立歴史民俗博物館高松宮家本（H一六〇〇一五五七の函二八〇）

【マイクロ】二二―二二―一―一三（一〇）／紙焼写真C三八一／写一冊／外題「天神御詠」／内題「天神御詠歌」／「天神御詠」のうち／天神御詠百首・天神十二時御詠・天神御詠哥・菅家御詠と合

【翻刻】

A（末尾）

右一帖瑠璃之壺と云

B（末尾貼付紙片）

此巻被合瑠璃壺ト云々

(31) 国立歴史民俗博物館高松宮家本（H一六〇〇一五五七の函二八〇）

【マイクロ】二二―二二―一―一三（一〇）／紙焼写真C三八一／写一冊

／外題「天神御詠」／内題「天神御詠哥」／「天神御詠」のうち／天神御詠百首・天神十二時御詠・天神御詠歌・菅家御詠と合

【翻刻】

A (末尾)

此御詠歌は鎮西今川殿より度々御所望候間  
二條殿より被遣秘哥也

B (同)

此百首御詠去年従或方令借用書写了

然処此一本一覽之処相違万多有之猶求

證本兩本之不同可決是非者也矣

慶長十二年<sup>丁未</sup>季冬月上旬天

祐範判

【備考】

A 「鎮西今川殿」…今川了俊か↓13道真(2)

「二條殿」…二条良基か。元応二年<sup>1320</sup>〜嘉慶二年(元中五年)<sup>1388</sup>。

B 「祐範」…中臣祐範。天文十一年<sup>1542</sup>〜元和九年<sup>1623</sup>。慶長四年<sup>1599</sup>春日社

正預。

(32) 国立歴史民俗博物館高松宮家本(H一六〇〇一五五七の函二八〇)

【マイクロ】二一一二一一一四／紙焼写真C三八一／写一冊／外題／内題「菅家御詠」／「天神御詠」のうち／天神御詠百首・天神十二時御

詠・天神御詠歌・天神御詠哥と合

【翻刻】合集された歌集については13菅原道真(28)〜(31)

(33) 国立歴史民俗博物館高松宮家本(H一六〇〇一六四九の函三八五)

【マイクロ】二一一五四―一三(一)／紙焼写真C二五二／写一冊／外題「天神御詠哥」／内題「天神御詠哥 百首」／妙法天神経と合

【翻刻】合集された歌集については13菅原道真(34)参照

A (天神御詠哥百首末尾)

此巻被号瑠璃壺<sup>ト云々</sup>

(34) 国立歴史民俗博物館高松宮家本(H一六〇〇一六四九の函三八五)

【マイクロ】二一一五四―一三(一)／紙焼写真C二五二／写一冊／外題「天神御詠哥」／内題「□妙法天神経」(尾題)／天神御詠哥百首と合

合

【翻刻】

A (巻末)

本云

此天神経者於九州安楽寺夏九旬法花経  
讀誦之間則此哥詠加自名題妙法天神経  
給也其已後性空上人依御夢想告即北野

詣一七箇日參籠満夜半对従御殿裏

青衣童子此経持出授性空上人畢雖

然在世之間者秘藏シ玉テ終不流布也

御入滅後弟子等弘之若人毎日夜一

度誦者一切諸願成就令如意云々

私云於九州安樂寺社僧坊自小鳥居殿

授之

玄亮

【備考】

A 「性空上人」…延喜十七年917〜寛弘四年1007。

「小鳥居殿」…未詳。小鳥居家は安樂寺の留守別当。

「玄亮」…未詳。

(35) 国立歴史民俗博物館高松宮家本 (H一六〇〇一四五〇ム函二三九)

【マイクロ】二二一〇六一八(一) / 紙焼写真C六四七 / 写一帖 / 外

題「聖廟百首」 / 内題「天神御詠百首」 / 天神十二時御詠と合

【翻刻】 合集された歌集については13菅原道真(36)参照

(36) 国立歴史民俗博物館高松宮家本 (H一六〇〇一四五〇ム函二三九)

【マイクロ】二二一〇六一八(一) / 紙焼写真C六四七 / 写一帖 / 外

題「聖廟百首」 / 内題「天神十二時御詠」 / 天神御詠百首と合

【翻刻】

A (末尾)

住吉大明神御詠

散やすきさくらの花を見むよりも

千代をへぬへき松をこそ見ぬ

子守大明神御返し

千代をへてそのうち松はいかならん

はるつきせすはなもつきせし

B (同)

聞書

あすよりはあたに月日を送らしと

おもへはけふもはやくれにけり

(以下十首ノ歌ヲ掲出)

【備考】

A 「子守大明神」 ↓ 13道真(29)

(37) 国立歴史民俗博物館高松宮家本 (H一六〇〇一四五四ム函一四四)

【マイクロ】二二一〇七三一一四(一) / 紙焼写真C五六三 / 写一

帖 / 外題「百首上」 / 内題「天神御詠百首」 / 「類聚百首」のうち / 天

神十二時御詠などと合

【翻刻】 合集された歌集については13菅原道真(38)(39)参照

(38) 国立歴史民俗博物館高松宮家本 (H一六〇〇一四五四ム函一四四)

【マイクロ】二二一〇七三一一四(一) / 紙焼写真C五六三 / 写一

帖 / 外題「百首上」 / 内題「天神十二時御詠」 / 「類聚百首」のうち /

天神御詠百首などと合

【翻刻】

A (末尾)

住吉大明神御詠

散やすき桜の花をみんよりも千代をへぬへき松をこそみめ

子守大明神御返し

千代をへてそのうち松はいかならん春つきせすはなもつきせし

B (末尾)

聞書

あすよりはあたに月日を送らしとおもへはけふもはやくれにけり

(後二十首ノ歌ヲ掲出)

【備考】

A 「子守大明神」↓13道真(29)

(39) 国立歴史民俗博物館高松宮家本(H一六〇〇一四五四ム函一四四)

【マイクロ】二一一一〇七三一一四(一三)／紙焼写真C五六三／写一帖／外題「百首上」／内題「天神御詠百首」／「類聚百首」のうち／天神十二時御詠・聞書などと合

【翻刻】合集された歌集については13菅原道真(37)(38)参照

(40) 国立歴史民俗博物館高松宮家本(H一六〇〇一四七五ム函一六九)

【マイクロ】二一一一〇七三一一四(一三)／紙焼写真C五九六／写一冊／外題

「夜ともし火」／三十六人歌合其他一冊／内題「天神十二支御詠」(巻首題)・「夜のともし火」(見返し題)・「天神十二支神詠」(目録題)／三十六人歌合・中古三十六人歌合などと合

【翻刻】

A (巻末)

右三巻合一冊者菅従二位源惟庸卿称号竹内所令

書寫給也而嘉永七年甲寅季秋中瀬奉

令旨

臣源忠彦寫之

【備考】

A 「従二位源惟庸卿称号竹内」：寛永十七年1640～宝永元年1704。元禄十四年1701従二位。

「源忠彦」：飯田忠彦(寛政十年1799～万延元年1860)。本姓、源。

(41) 刈谷市中央図書館村上文庫(一八八七)

【マイクロ】三〇一一〇五一一二／紙焼写真F三六八／写一冊／外題「菅家須广記附御詠」／内題「菅家御詠百首」／菅家須磨記と合

【翻刻】

A (菅家御詠百首末尾)

右御詠哥毎日一編詠馴是常天神令守護也

現世安穩後世善處御神托不可疑者也矣

可謹信焉穴賢

安楽寺秘蔵書摸写

B (同)

桑園蔵

【備考】

B 「桑園」…未詳。

(42) 刈谷市中央図書館村上文庫 (二二一八)

【マイクロ】三〇—二二—七／紙焼写真C二九七九／写二冊／外題「菅家御詠集」(マイクロ不鮮明、調査カードによる)／内題「菅家御詠集」

【翻刻】

A (巻末)

松田元春拝授

B (同)

平野達海《花押》

【備考】

A 「松田元春」…未詳。

B 「平野達海《花押》」…未詳。

(43) 刈谷市中央図書館村上文庫 (六二〇三／120／9丙二)

【マイクロ】三〇—四二—一—五二／紙焼写真J一〇六／写一冊／外題「蓬廬雑鈔」／内題「北野天神百首御詠」(首題)・「北野天神百首御詠」

【目録題】／「蓬廬雑鈔」のうち／唯行院殿伊勢紀行、四十二乃物あら

そひなどと合

【翻刻】

A (跋文)

貞治元年三月廿四日夜

前光厳院殿御枕上に衣冠正しく上臈一人参せたりて申させけるは是は北野に住居而常に奉公致者也我西海へ赴んとせし時後の寿瑞を願か為に一夜松の西へさしたる根の下に埋たる石の唐戸有今時を得たり人を遣して取出され侍るへし其中に青料紙ニ書たる百首の哥并ニ秘文有次ニ実名有取て百首の哥の内何れにても一首一名を書添我に向ことく信心を致てたもたは諸のちうよう時患其身にかけもさゝしめし又其家の内々疫病を入れすとおもは、此秘文を書て一の実名を書添て東南西北に埋へし然は我毎日来臨し来んその病患を払しめん又実名かきそへ佛眼大徳呪五返金剛輪呪七返金剛名を廿五返毎日誦して我うる所の廻向を以諸佛を祈らは三度つゝ立巡て守護し諸願を今満足と申させ給て帰給ふと思候御夢は覚させ給ぬ徳大寺三位 堀河侍従両使を以北野法眼ニ被仰付御子左二位 中将為重脚を相添一夜松の西にさしたる根の下をほらせらる深さ地七尺を過て約束の石の唐戸あり為重脚是を披見し給ふわか中に青地の金欄にて上巻したる彼神の真筆あり則帝夢中の約束

の如しは雲上の外関白為重卿北野法眼の外ハ家

家ニハ末然ヲ康應元年二月廿日從筑紫上洛して

法眼対面の時此書を随分跡きれてみへす

B (末尾)

人しれす間に北野ノ神そとは袖にもち

たる梅にてもしれ

唐衣おらて北野の神そとは袖にもちたる

梅の一枝

【備考】

A 「前光厳院殿」…正和二年1313〜貞治三年1364。元亨三年1333讓位。

「徳大寺三位」…徳大寺実時か。貞治元年1362、正三位権中納言。応永

二年1395従一位。

「堀河侍従」…堀河(源)具言か。生年未詳〜応永廿五年1418。

「北野法眼」…未詳。石見法眼禪陽か。生没年未詳。南北朝時代の北

野天満宮祠官。松梅院の祖。尊氏の戦勝祈願の勲功により御師職と

なる。後に法印。

「御子左二位中将為重卿」…正中二年1325〜至徳二年(元中二年)1385。

至徳元年1384権中納言、同二年従二位。

「関白」…近衛道嗣。元弘二年1332〜嘉慶元年1387。康安元年1361関白、貞

治二年1363に辞す。

【マイクロ】三二一九〇―二一三ノ紙焼写真C三九六七ノ写一帖ノ外題

「幽旨桐火桶ノあるいは本哥のノ菅家御歌」ノ内題ナシノ幽旨などと合

【翻刻】

A (巻頭)

ある人懇望あやにくにて十ヶ年

先に書つかはししはし書に又此

度■海湯道中湯治する

人所望加書物也是は更

分別ありかたき一紙也

されとも必命人にかゝせて

まいらせ候先立といふより

此度にて物にまいらせ候 ■云々

(45) 水府明德会彰考館(巳七―〇六九九六〜八)

【マイクロ】三二―二八八―二ノ紙焼写真C七〇七二ノ写三冊ノ外題「菅

家金玉抄 一之三(四之七、八之十五止)」ノ内題「菅家金玉抄 巻第

一(二―十五)」

【翻刻】

A (巻末)

右道實公之歌非凡心所及自今以後更無

此風夕出隱室家之雖分秘分而憚見書而已

于時文安五年林鐘十九日 継長在判

(44) 水府明德会彰考館(巳ノ式拾)



B (同)

菅贈相国家集抄一部十五冊無之所希有也

頃間畢得此書而歎■無止密繕写之深収

函底以備家藏之重宝云尔

【備考】

A 「継長」↓13道真 (18)

(46) 水府明德会彰考館 (巳五―〇六一九)

【マイクロ】三四―三九一八(一)、三四―三三〇―四(一) / C

「千里集 聖廟御集 是則集 公忠集 長能集 全」 / 内題「聖廟御集」 / 千里集・是則集・公忠集・長能集と合

【翻刻】

A (内題下書入)

この集■の偽せるなり上古并近世の

哥相交■■其外卑俗之類多シ

決而菅家の御集にあらず

(47) 神宮文庫 (三 / 二五二)

【マイクロ】三四―三九一八(一)、三四―三三〇―四(一) / C  
四六八四、C六八八五 / 写一冊 / 外題「聖廟御詠」 / 内題「聖廟御詠」

／天神様御作十二時之御詠・聖廟御詠などと合

【翻刻】

A (聖廟御詠末尾)

此御詠は應安八年二月廿五日花山院僧正菅家の

一流秘書御傳受之御作審條々被尋就之菅

宰相開家本勘出之以真本書写之訖同雖及

撰文之相傳所望依難去出之貴方又他所不

可被出此本秘々而已未之

康應元年七月廿五日書寫之應永七年十二月十一日書寫之  
文安三曆八月七日書寫之

B (卷末)

謹思堂敬義

C (同・奉納印)

天明四年甲辰八月吉旦奉納

皇太神宮林崎文庫以期不朽

京都勤思堂村井古巖敬義拜

【備考】

A 「花山院僧正」↓13道真(1)

B 「謹思堂敬義」C 「村井古巖敬義」↓2人麻呂(16)

(48) 神宮文庫 (三 / 二五二)

【マイクロ】三四―三九一八(一)、三四―三三〇―四(一) / C  
四六八四、C六八八五 / 写一冊 / 外題「聖廟御詠」 / 内題ナシ / 聖廟御詠・天神様御作十二時之御詠・聖廟御詠などと合

【翻刻】

A (御詠廿五首卷頭)

御詠廿五日イナ今河殿依夢想被掘出歌也

B (末尾)

于時康應第一己曆仲冬中旬五天書寫之

C (卷末)

謹思堂敬義

D (同・奉納印)

天明四年甲辰八月吉旦奉納

皇太神宮林崎文庫以期不朽

京都勤思堂村井古巖敬義拜

【備考】

A 「今河殿」↓13道真(2)

C 「謹思堂敬義」D 「村井古巖敬義」↓2人麻呂(16)

(49) 神宮文庫 (三/一二五二)

【マイクロ】三四―三九一八(一三)、三四―三三〇―四(一三) / C

四六八四、C六八八五 / 写一冊 / 外題「聖廟御詠」 / 内題「天神様御作

十二時之御詠」 / 聖廟御詠・聖廟御詠などと合

【翻刻】

A (末尾)

御詠一冊事任上件奥書之旨鎮納匣底雖不

出坊室依難去所望子細神慮不憚惡筆

奉摸寫之者也若於于拜見之砌者々深銘心肝弥

可奉低神臆之者也

于時長祿肆年仲冬下旬之比録之也

北野隱士法印權大僧都禪盛在判

為禪淨坊臬上座御房書寫之比此力

右之本書ノ加様ニ有此與々々

B (卷末)

謹思堂敬義

C (同・奉納印)

天明四年甲辰八月吉旦奉納

皇太神宮林崎文庫以期不朽

京都勤思堂村井古巖敬義拜

【備考】

A 「北野隱士法印權大僧都禪盛」 「禪淨坊禪臬」↓13道真(3)

B 「謹思堂敬義」C 「村井古巖敬義」↓2人麻呂(16)

(50) 神宮文庫 (三/一二五二)

【マイクロ】三四―三九一八(一四)、三四―三三〇―四(一四) / C

四六八四、C六八八五 / 写一冊 / 外題「聖廟御詠」 / 内題「聖廟御詠」

/ 聖廟御詠・天神様御作十二時之御詠などと合

【翻刻】

A (卷末)

謹思堂敬義

B (同・奉納印)

天明四年甲辰八月吉日奉納  
皇太神宮林崎文庫以期不朽  
京都勤思堂村井古巖敬義拜

【備考】

A 「謹思堂敬義」 B 「村井古巖敬義」 ↓ 2人麻呂 (16)

(51) 神宮文庫 (三ノ一二五二)

【マイクロ】三四―三三九―八(一五)、三四―三三〇―四(一五) / C  
四六八四、C六八八五 / 写一冊 / 外題「聖唐御詠」 / 内題「<sup>本ノマ</sup>聖廟御詠」  
／聖廟御詠・天神様御作十二時之御詠などと合

【翻刻】

A (卷末)

明應九年三月二日大雨の夜世間門くゝに書し

哥

梅あらはしつか伏屋の門までも我立よらんあくましりそけ

B (同)

謹思堂敬義

C (同・奉納印)

天明四年甲辰八月吉日奉納  
皇太神宮林崎文庫以期不朽

京都勤思堂村井古巖敬義拜

【備考】

B 「謹思堂敬義」 C 「村井古巖敬義」 ↓ 2人麻呂 (16)

(52) 神宮文庫 (三ノ一二五三)

【マイクロ】三四―三三九―九(一)、三四―四三三―八(一) / C  
四六八五、C六九〇〇 / 写一冊 / 外題ナシ / 内題「聖廟御詠」 / 天神御  
作十二時之御詠・聖廟御詠・御詠廿五首などと合

【翻刻】

A (末尾)

此御詠は應安八年二月廿五日花山院僧正

菅家之一流秘書御傳受之御作不審條々

被尋就之菅宰相開家本勘出之以真書

写之訖同雖及撰文之相傳所望依難去書之

貴方又他所不可被出此本秘々而已

康應元年七月廿五日書写之

【備考】

A 「花山院僧正」 ↓ 13道真(1)

(53) 神宮文庫 (三ノ一二五三)

【マイクロ】三四―三三九―九(一)、三四―四三三―八(一) / C  
四六八五、C六九〇〇 / 写一冊 / 外題ナシ / 内題ナシ / 聖廟御詠・天神

御作十二時之御詠・聖廟御詠・御詠廿五首などと合

【翻刻】

A (巻頭)

御詠廿五日今川殿依夢想被掘出哥也

B (末尾)

于時康應第<sup>己</sup>曆仲冬中旬五天書写之

【備考】

A 「今川殿」↓13道真(2)

(54) 神宮文庫 (三ノ一二五三)

【マイクロ】三四―三九一九(一三)、三四―四三八一六(一三) / C  
四六八五、C六九〇〇 / 写一冊 / 外題ナシ / 内題「天神御作十二時之御詠」 / 聖廟御詠・御詠廿五首などと合

【翻刻】

A (末尾)

御詠一冊事任上件奥書之旨鎮納<sup>四</sup>底雖不出

坊室依難去所望子細神慮不憚惡筆奉摸

写之者也若於于拜見之砌者々深銘心肝弥可

奉低神臈之者也

于時長祿肆歲仲冬下旬之比録之也

北野隱士法印権大僧都禪盛在判

為蓮淨坊禪果上座御房書写之此興<sup>云々</sup>

右之本書ケ様ニ有

【備考】

A 「北野隱士法印権大僧都禪盛」「蓮淨坊禪果」↓13道真(3)

(55) 神宮文庫 (三ノ一二五三)

【マイクロ】三四―三九一九(一四)、三四―四三八一六(一四) / C  
四六八五、C六九〇〇 / 写一冊 / 外題ナシ / 内題「聖廟御詠」 / 聖廟御詠・天神御作十二時之御詠・御詠廿五首などと合

【翻刻】合集された歌集については13菅原道真(52)〜(54)(56)(57)参照

(56) 神宮文庫 (三ノ一二五三)

【マイクロ】三四―三九一九(一五)、三四―四三八一六(一五) / C  
四六八五、C六九〇〇 / 写一冊 / 外題ナシ / 内題「<sup>キマ</sup>聖廟御詠」 / 聖廟御詠・天神御作十二時之御詠・聖廟御詠・御詠廿五首などと合

【翻刻】

A (末尾)

此御詠者應安八年二月二十五日花山院僧正菅家之

一流秘書御傳受之時御作不審條々被尋就固難及

誓文相傳所望依難去出之貴方又地所不可

被書此本秘而已求之

康應元年七月廿日書写之

應永七年十二月十一日書写之

文安三曆八月七日書写之

【備考】

A 「花山院僧正」↓13道真(1)

(57) 神宮文庫(三/一二五三)

【マイクロ】三四―三九―九(一六)、三四―四三八―六(一六)／C  
四六八五、C六九〇〇／写一冊／外題ナシ／内題「御詠廿五首」／聖廟  
御詠・天神御作十二時之御詠・聖廟御詠などと合

【翻刻】

A (内題下)

今川殿依夢想被掘出御哥也

B (巻末)

明應九年三月二日大雨の夜世間門くくに

書し哥

梅あらはしつか伏やの門までも我立よらんあくましりそけ

【備考】

A 「今川殿」↓13道真(2)

(58) 神宮文庫(三/一四四九)

【マイクロ】三四―一五六―三／C四八四二／写一冊／外題「瑠璃壺御詠  
全」／内題「玉玉竹木日瑠璃歌／御詠詞 百首」

【翻刻】

A (序)

後光厳院御宇貞治元年三月二十日の夜 主上

御夢中に衣冠正敷公卿参りて申されけるは我は  
是北野邊に有て常に奉公せし者也もときいふ  
に趣むかんとしける時後のきとくをなさしめんか

為に北野一夜松の西にさしたる根の下にから櫛<sup>①</sup>  
を埋み置たりし事あり其内に哥百首並に

七言二句の五きやうのひもんを五りやうしに書付て  
置侍る也若其中のうた何れにても一首又五の

中にいつれの名いつれにてもひとつを書そへて我に  
むかへる思ひをなして信心をいたす人あらは諸の

ちうやうをのかし一切の病けんにも犯さるゝ事  
有へからす此ひもんを書付てしつみやうを

書付て住宅の四方に埋みたらん所へは毎日影向  
して病難を拂ひしよくをみてしめん也五真言

多きたらにの内にとりわけて

仏眼呪 五へん 大威徳呪 五へん

大金剛輪呪 七反 南無胎藏界諸尊 廿一反

南無金剛界諸尊 廿一反

此ひもんを彼しつみやうを唱て諸願を祈らは諸  
仏諸神加護をなし給はん事うたかひ有へからす

我は人のもとへ毎日三度行て願を望みを満足

せしめん也と慥に申述て帰らせ玉ひけるを御夢

賞給ひてふしきに思召て徳大寺三位堀河侍従

兩人を勅使として北野法眼に仰御子左二位中将

為重卿を奉行にて其教への処をそほらせられける

深さ七尺はかりにいたつて石の礎有為重卿あけ

させて見給ふに青地の金欄にて上巻したる巻

物有是を開かれけるに疑ふ所もなき聖廟の御直

筆にてそありける則とりて叡覽に伝へけるに

もん第の趣教の御夢想に少もたかはさりければ深く

御信仰有ける此次第主上より外は時の関白為

重卿北野法眼より別に知る人もなき物也希代の

神異しゆせうのてんもん議にとんけの一かいにも

こえたりとしようしてしんきやうの議を富法には何

もののか是にすぎんやあなかしこ

康暦元年二月廿日 初而法眼傳之

應仁二年二月二日 相傳之兼載 判

文龜元年六月三日 相傳之祐増 判

天文十九年五月三日 相傳之宗綱 判

B (同)

次にきくはんのしたい

前にふつけん等の呪をとなへ

次にひもん

我無父母令出世一切衆生能引導常非一

心於日夜實名知者應守護

次にしつみやう

南無好玄よしはる 良通よしみち 通直みちなを

道真みちさね 道信みちのふ

婦命天満大自在本地観音大聖尊為度一切諸

衆生示現威光大明神

C (卷末)

又へちの所に

心たに誠の道にかなひなは祈らすとても神や守らむ

われたのむ人をむなしくなすならば天か下にて名をや流さん

君が住梅の立枝を行くもかくる程に帰り見しかな

初瀬の縁起の御託宣に

離家ヲ三四月 落ル涙ハ百千行

思ひきる心の劔ひとつたにあらは浮世の綱はものかは

此詩歌毎日唱奉らは諸の災難を遁しめんと

御たくせんなりと云々

【備考】

A 「後光厳院」…暦応元年（延元三年）1338～応安七年（文中三年）1374。

観応三年（正平七年）1352八月踐祖、同四年十二月～応安四年（建徳一

年）三月まで在位。

「徳大寺三位」「堀河侍従」「北野法眼」「御子左二位中将為重卿」「関白」↓13道真(43)

「兼載」…猪苗代兼載。享徳元年1452～永正七年1510。

「祐増」…未詳。

「宗綱」…未詳。

(59) 高岡市立中央図書館(九二一・一・九五)

【マイクロ】五〇―二―三―一／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「菅家御詠」／内題「天神御詠百首」／天神十二時御詠・天神御詠歌・菅家御詠などと合

【翻刻】

A (表紙見返し)

十五 五

高岡市

野村太一郎殿

B (同)

我たのむ人をむなしくなすならば

天か下にて名を流かさぬ

菅相

C (後表紙見返し)

天保十五甲辰年堅八智

浅香山下

奥州田村

安倍信麻呂

浅香山

知友

【備考】

A 「野村太一郎」…未詳。

B 「安倍信麻呂」…未詳。

「知友」…未詳。

(60) 高岡市立中央図書館(九二一・一・九五)

【マイクロ】五〇―二―三―二／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「菅家御詠」／内題「天神十二時御詠」／天神御詠百首・天神御詠歌・菅家御詠などと合

御詠などと合

【翻刻】見返しなどの書入については13菅原道真(59)参照

(61) 高岡市立中央図書館(九二一・一・九五)

【マイクロ】五〇―二―三―三(一)／紙焼写真ナシ／写二冊／外題

「菅家御詠」／内題「天神御詠歌」／天神御詠百首、天神十二時御詠、

菅家御詠などと合

【翻刻】見返しなどの書入については13菅原道真(59)参照

A (末尾)

右一帖瑠璃之壺と云

歌などと合

(62) 高岡市立中央図書館(九二一・一九五)

【マイクロ】五〇―二二―三―三(一) / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題

「菅家御詠」 / 内題「天神御詠歌」 / 天神御詠百首、天神十二時御詠、菅家御詠などと合

【翻刻】見返しなどの書入については13菅原道真(60)参照

A (末尾)

此御詠歌は鎮西今川殿より度々御所望候間

二條殿より被遣秘哥也

D (同)

此百首御詠去年従或方令借用書写之

然処此一本一覽之処相違万多有之猶求

證本兩本之不同可決是非者也矣

慶長十二年丁季冬上旬天

祐範判

【備考】見返しなどの書入については13菅原道真(59)参照

A 「鎮西今川殿」今河了俊 ↓ 13道真(2)

「二條殿」D 「祐範」 ↓ 13道真(31)

(63) 高岡市立中央図書館(九二一・一九五)

【マイクロ】五〇―二二―三―四 / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題「菅家御詠」 / 内題「菅家御詠」 / 天神御詠百首・天神十二時御詠・天神御詠

【翻刻】見返しなどの書入については13菅原道真(59)参照

(64) 大阪市立大学術情報総合センター森文庫(二八九・一K A I)

【マイクロ】五二―一七―一 / 紙焼写真N一八四七 / 写一冊 / 外題

「菅家御年譜 附百首御歌」 / 内題「菅家御詠百首」 / 菅家御年譜と合

【翻刻】

A (百首御歌末尾)

予往年貝原篤信先生の天満宮故実二巻をよむ頃日友生菅神御年譜

一本を参すよつて故実と校訂するに大同小異ありて故実は草本にて

年譜 / 本は後定本ならん頗まされり因て年譜本をうつし置ぬ

文化四年八月下澣

B (同)

安政六年未九月写

入矢在縣

【備考】

A 「貝原篤信」…貝原益軒。寛永七年1630 ~ 正徳四年1714。

B 「入矢在縣」…未詳。

(65) 徳島県立図書館森文庫(W九二一・一 / スカ)

【マイクロ】六三―三三―五―七 / 紙焼写真C五六四四 / 写一冊 / 外題「菅神百首」 / 内題「菅神百首」



【翻刻】

A (卷末)

天神配所にての御詠と云つたへし

(66) 今治市河野美術館 (三四六一八三九)

【マイクロ】七三―三五四―四(一) / 紙焼写真C九一二七 / 写一冊 /

外題「菅家御集 三」 / 内題「聖廟御詠」〔首題〕・「菅家御集」〔扉題〕

／天神様御作十二時之御詠・聖廟御詠・聖廟御詠などと合

【翻刻】

A (末尾)

此御詠は應安八年二月廿五日花山院僧正菅家ノ

一流秘書御傳受之御作不審條々被尋就之菅

宰相開家本勘出之以真本書寫之訖同雖及

撰文之相傳所望依難去出之貴方又他所不

可被出此本秘々而已 求之

康應元年七月廿五日書寫之應永七年十二月十一日書寫之  
文安二曆八月七日書寫之

【備考】

A 「花山院僧正」 ↓ 13道真(1)

(67) 今治市河野美術館 (三四六一八三九)

【マイクロ】七三―三五四―四(一) / 紙焼写真C九一二七 / 写一冊 /

外題「菅家御集 三」 / 内題「菅家御集」〔扉題〕 / 聖廟御詠・天神様

御作十二時之御詠・聖廟御詠・聖廟御詠と合

【翻刻】

A (巻頭)

御詠廿五日今日今河殿依夢想被掘出哥也

B (末尾)

于時康應第一己曆仲冬中旬五天書寫之

【備考】

A 「今河殿」 ↓ 13道真(2)

(68) 今治市河野美術館 (三四六一八三九)

【マイクロ】七三―三五四―四(一) / 紙焼写真C九一二七 / 写一冊 /

外題「菅家御集 三」 / 内題「天神様御作十二時之御詠」〔首題〕・「菅

家御集」〔扉題〕 / 聖廟御詠・聖廟御詠・聖廟御詠などと合

【翻刻】

A (末尾)

御詠一冊事任上件奥書之旨鎮納匣底雖不

出坊室依難去所望子細神慮不憚惡筆奉

摸寫之者也若於于拜見之砌者々深銘心肝

弥可奉低神臆之者也

于時長祿肆年仲冬下旬之比録之也

北野隱士法印權大僧都禪盛在判

為禪淨坊禪桌上座御房書写之比此與云々

右之本書加様ニ有

【備考】

A 「北野隠士法印権大僧都禅盛」「禅浄坊禅泉」↓13道真(3)

(69) 今治市河野美術館(三四六―八三九)

【マイクロ】七三―三五四―四(一四)／紙焼写真C九一二七／写一冊／

外題「菅家御集 三」／内題「聖廟御詠」(首題)・「菅家御集」(扉題)

／聖廟御詠・天神様御作十二時之御詠・聖廟御詠などと合

【翻刻】合集された歌集については13菅原道真(66)〜(68)(70)参照

(70) 今治市河野美術館(三四六―八三九)

【マイクロ】七三―三五四―四(一五)／紙焼写真C九一二七／写一冊／

外題「菅家御集 三」／内題「聖廟御詠」(首題)・「菅家御集」(扉題)

／聖廟御詠・天神様御作十二時之御詠・聖廟御詠などと合

【翻刻】

A (末尾)

明應九年三月二日大雨の夜世間門くゝに書し哥

梅あらはしつか伏屋の門までも我立よらんあくましましりそけ

(71) 今治市河野美術館(三四七―八四四)

【マイクロ】七三―三五八―五／紙焼写真C九一六二／写一冊／外題ナ

シ／内題「菅家御詠」(首題)・「菅家御詠 寫」(扉題)

【翻刻】

A (巻末)

明治十四年一月十八日歌御會始

竹有佳色

御製

うゑおきし庭の呉竹よゝをへてかはらぬ色のたのもしき哉

皇后宮御歌

一品職

【備考】

A 「一品職」：有栖川熾仁親王。文化九年1886〜明治十九年1886。慶応三年

1868叙一品。

(72) 今治市河野美術館(二二二―八四五)

【マイクロ】七三―三五八―六／紙焼写真C九一六三／写一冊／外題「菅

家御集 全」／内題「菅家御集」

【翻刻】

A (巻末)

宝曆十三<sup>癸未</sup>年十月中旬写之

(73) カリフォルニア大学バークレー校 (University of California, Berkeley)

(二二〇三)

【マイクロ】二二五―五九―五／紙焼写真C一〇九〇〇／写一冊／外題

「菅家百首」／内題「天神御詠哥 朱一本」／和歌草稿・新題和歌・大嘗会和歌など他四冊と合

【翻刻】

A (内題下)

二條殿御清撰之

B (卷末)

右一帖瑠璃之壺と云

C (同)

此御詠は鎮西今川殿より度々御所望之間

二條殿より被遺秘哥也

D (同)

一本云此百首御詠去年従或方令借用書写之

然処此一本一覽之処相違万多有之猶求

證本両本之不同可決令是非者也矣

慶長十二年丁未季冬上旬天 祐範判

E (同)

以

植松殿文庫古本書写之加校合訖

弘化五年戊申正月三日戊寅

坂上大宿禰康敬

F (同)

朱ノ分一本歌

老て猶きかはいかといにしへをおもはぬたにも荻の上かせ

よもすからひかぬなるこのおときけは月をゆるかすかせのうきは

よし心おもひも出よ捨てこし身のかへるへき廿日ならねは

も、色のも木々にまされる花咲て鳥のなかにも鶯のこゑ

たてぬきに雲のしらいと引のへてかすみの衣かせやをるらん

太山より木々の梢をつたひきて一声になる庭の松かせ

もろこしをいくへか風のへたつらんうしのとしまていてぬ月かと

おと、しも去年もことしもさく花のその日ちりきと誰か知らん

朱ノ分此本之歌 ちる花を 思ひきる 谷水の 谷川の

いろくの よひの間や われよりも 不見

【備考】巻頭に十三首記した貼紙あり

A 「二條殿」 C 「二條殿」 ↓ 13道真(31)

C 「鎮西今川殿」 ↓ 13道真(2)

D 「祐範」 ↓ 13道真(31)

E 「植松殿」：未詳。植松茂岳か。熱田文庫の創設者。寛政六年 1794 明

治九年 1876。

「坂上大宿禰康敬」：小泉保敬。寛政十年 1798 嘉永五年 1852。初め坂上

氏。初め保敬、後に康敬。国学者。

(74) アメリカ議会図書館 (The Library of Congress) 九一・一一三 / 三三

七)

【マイクロ】二四一―六一一―紙焼写真C九六三九／写一冊／外題ナシ／内題「菅家集」〔首題〕・「菅家集」〔尾題〕／菅家御神詠七千首中秘歌百首・菅相公詠歌・菅相御詠集と合

【翻刻】

A (内題下)

四百六拾六首

B (末尾)

一本云七千首之中百首之秘哥有之点ナル哥七八百首之内也○廿七首有之

(75) アメリカ議会図書館 (The Library of Congress) (911.12/S3)

七)

【マイクロ】二四一―六一一―紙焼写真C九六三九／写一冊／外題ナシ／内題「菅家御神詠七千首中秘歌百首」〔巻首題〕・「天満宮貳百首和歌 全」〔扉題〕／菅家集・菅相公詠歌・菅相御詠集と合

【翻刻】

A (末尾)

右御詠歌毎日一偏詠人常恒 天満宮令守護現世

安穩後生善所不可疑 御神詠於安樂寺云々

賢々々可信

延徳二年庚戌年卯月廿五日

(76) アメリカ議会図書館 (The Library of Congress) (911.12/S3)

七)

【マイクロ】二四一―六一一―紙焼写真C九六三九／写一冊／外題ナシ／内題「菅相公詠歌」・「天満宮貳百首和歌」〔扉題〕／菅家集・菅家御神詠七千首中秘歌百首・菅相御詠集と合

【翻刻】

A (百首末尾)

此御百首者從菅原之御家北野之

聖廟江納給ふを写し侍りし

B (末尾)

右天満宮御詠者多年懇望之處不計而幸求

植田氏秘本写置猥不可他見者也

明和八歳辛卯秋八月廿五日 山田氏正賢謹書

【備考】

B 「植田氏」…未詳。

「山田氏正賢」…未詳。

(77) アメリカ議会図書館 (The Library of Congress) (911.12/S3)

七)

【マイクロ】二四一―六一一―紙焼写真C九六三九／写一冊／外題ナシ／内題「菅家御詠集」／菅家集・菅家御神詠七千首中秘歌百首・菅相公詠歌と合

【翻刻】

A (巻末)

春九十五首 夏二十一首 秋八十七首 冬三十五首  
旅四十五首 恋四十九首 雜三十七首

凡三百六十九首

B (同)

此一冊當春從京都到来之旨杉若柯求方より借用也  
元禄十六年末五月写之

C (同)

同年九月朔日以津田氏藏本写之

敬居

D (同)

享保十九年甲寅十月上旬懇望写之

松本逸平

E (同)

天明七年十一月貝原氏天満宮故実を讀に菅公

和歌集一冊と云々見まく欲するに翌の日此書を

浅草辺にて得たり 神慮のしからしむるものか甚奇

なりとす

平高潔

F (同)

おなしとしのしはすなかは友人平高潔のかりとふらひけるに

この一冊を手をふれければこひてふところになしけるに

としもかへりぬ天明八年戊申正月甲子朝もの

書そむるとてひとしく此ふみ哥出しみるに誰人の

集め置けるともしらすいとおほつかなくわいため

かたき御哥などもあなるやうなれとこの

公の 御いさほしあふきたいまつるまにく筆に

まかせてうつしはへりぬ

盤侯空珂源義亮良明父

G (同)

文化五<sup>戊辰</sup>年閏六月廿三日写之

伴 直方

H (Fの上)

○万按貝原氏

満宮故実コアク

たりし本にかつて

菅公北哥楽そ

いふかな見えず

【備考】

B 「杉若柯求方」：杉若松中。号柯求翁、松響堂。生年未詳、宝永元年

1704。

C 「津田氏」：未詳。

「敬居」：未詳。

D 「松本逸平」：未詳。

E 「平高潔」：小野高潔。国学者。延享四年1747、文政十二年1829。

F 「盤侯空珂源義亮良明父」：空阿。盤溪居士。俗姓、源。俗名、義亮、

良明。生没年未詳。江戸後期の人。

G 「伴直方」↓13道真(16)

H「目原氏」↓13道真(64)

(78) 多和文庫(四二〇)

【マイクロ】二七二―七〇―八一三／紙焼写真C一〇四〇七／写一冊／外

題「毘沙門為兼歌集 天神御秘歌」全／内題「天神御詠哥七千首内秘哥」／毘沙門

為兼歌集・新哥仙と合

【翻刻】

A (天神御秘哥末尾)

右御詠調毎日一偏詠人常恒

天神令守護現世安穩後生善

所不可疑御神託安楽寺秘

藏々々穴賢々々可信々々云々々

延徳貳年卯月廿五日書之

(79) 多和文庫(八九)

【マイクロ】二七二―二七二―二七三／紙焼写真C一〇四三六／写一冊／外題

「聖廟集書家集」／内題「聖廟集書家々々」

【翻刻】

A (卷末)

已上四百六十有五首乎

B (同)

写本 聖廟御詠歌以北野齋成院明順自筆之本

書写之長享三年巳酉正月初四日 右筆慈金五十六歳

ス袖に持たる梅にてもしれ

からころもをらて北野の神そとは年アふる夜半の我身なりけり

去人の聖廟御詠歌なりとその給ひし

今茲延宝四丙辰如月下五日鷹如水公

求今禿筆之了談山勒息 覺純蹊圃

爾時

享保甲辰歳九月廿日菅明院現住義算寄附之於与喜

社者也 諸願成就皆令満足焉

此聖廟集當院無之故令小弟書之寄附之者也当院不出

住寺宗纂印

【備考】

B「北野齋成院明順」「慈金」↓13道真(19)

「鷹如水公」…未詳。

「談山勒息」…未詳。

「覺純蹊圃」…未詳。

「菅明院現住義算」…未詳。菅明院は與喜天満神社(奈良初瀬)の神

宮寺。

「住寺宗纂印」…未詳。藤原宗算か。生没年未詳。江戸中期の人。神職。

(80) 弘前市立図書館(W九二・一三一―一三)

【マイクロ】二七二—五五—三／紙焼写真ナシ／刊一冊／外題「菅原贈太政大臣歌集」／内題「菅原贈太政大臣歌集」〔首題〕・「菅原贈太政大臣歌集」〔序〕・「菅原贈太政大臣歌集」〔跋〕・「菅原贈太政大臣歌集」〔柱〕

【翻刻】

A (序文末尾)

文化十二年乙亥秋七月

上毛 河井纓謹撰

B (跋文末尾)

文化十二年七月廿日余りいつかの日

正木千幹しるす

C (刊記)

総計一十五部

東都 鱧 貞治編纂

清水濱臣大人 同校  
正木千幹大人

文化十二乙亥 歳次七月新刊 松楓閣蔵板

D (後ろ見返し書入)

下沢保躬

求之

【備考】序跋文、道真公世系、引用書目を付す。

A 「河井纓」…未詳。

B 「正木千幹」…安永六年1777〜文政六年1823。国学者。

C 「鱧貞治」…未詳。穂積貞治と同一人物か。

「清水濱臣」↓2人麻呂(19)

D 「下沢保躬」…天保九年1838〜明治二十九年1896。国学者。

(81) 金沢市立玉川図書館稼堂文庫

【マイクロ】二七四—二二—一〇／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「北野神詠百首」／内題「北野神詠 百首和歌」

【翻刻】

A (卷末)

菅贈太政大臣道真公之神詠之

由此百首細川兵部大輔藤孝入

道玄旨法印号幽斎御所持之本

書幽斎老人之祐筆清水雅楽  
筆跡之点也借出シ不違一

字書写之畢此百首之事世間

流布之本別ニ有其本ト此本トハ

各別ニシテ此本正本タルヘキ也

幽斎老人雑談之内ニ天神之百首

ト云物不慥之由耳底記ニ見タリ

此百首之事歟覚東ナシ此百首

モ時代哥之風躰新ク見ユルモ

有之猶識者之考ヲ待而已

哥のしらへはそもく後にてまた

しき哥もましれり菅公の御作と

はさらにおもはれずされとも取るへ

きうたのなきにもあらず□聊

朱を加へてよしと□も見る哥には

点を加へ侍りぬ 松隠

【備考】

A 「細川兵部大輔藤孝入道玄旨法印号幽齋」…天文三年1534〜慶長十五年

1610。

「松隠」…未詳。

(82) 園部町教育委員会小出文庫(三三)

【マイクロ】三〇三七七―一五―七／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「菅家御集全」／内題「聖廟御集」

【翻刻】

A (巻末)

歌数百七十六首

(83) 金沢市立玉川図書館藤本文庫(〇九六・八／四七七)

【マイクロ】三〇三七七―三―D〇一／紙焼写真C一―一六三三／写一冊  
／外題「天満宮御神詠」／内題「天満宮御神詠集覽」／天満宮御神詠と

合

【翻刻】

A (内題下)

高橋富兄謹識

【備考】

A 「高橋富兄」…文政八年1825〜大正三年1914。国学者、歌人。

(84) 金沢市立玉川図書館藤本文庫(〇九六・八／四七七)

【マイクロ】三〇三七七―三―D〇二／紙焼写真C一―一六三三／写一冊  
／外題「天満宮御神詠」／内題「天満宮御神詠」／天満宮御神詠集覽と

合

【翻刻】

A (内題下)

高橋富兄謹識

B (跋文)

右十二首撰集のと共に四十八首なり内情なくの哥の外  
四十七首東幸府蔵梓に載跋に云くこれらの哥ともを  
おきて世にこの公の哥となふるもの大かたは後の人の  
つくれるものなりゆめくまとふへからすいはゆるよひの  
まや云々などのことし今此撰集のうちよりとりひろへる  
ついでにいさゝか此よしをことわりおくのみ藤原顕忠  
謹識と見ゆけに此哥ともそ正しきか中の正しきなり  
けるされとこのほかにも猶真詠なるもあるへければ  
みなからすてんは神のおもほしめさんほともいとかしこく  
なんされは此神の御哥としきかは真偽を不論も敬



神の一事ならましゆめくみたりになあけつらひそ

高橋富兄謹識

【備考】

A B 「高橋富兄」↓13道真(83)

B 「藤原顕忠」…仲田。寛政十一年1799〜万延元年1860。歌人。

(85) ノートルダム清心女子大学附属図書館(F四二)

【マイクロ】三三二―一五四―四／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「菅家御詠集」／内題「菅家御詠集」〔首題〕・「菅家御詠集」〔扉題〕

【翻刻】

A (巻末)

本五 天神咒南無實道権現《梵字》

御實名本ハ  
實道ト申由也

B (同)

元禄六酉五月二日写之者也写本に不審作也

本云臨写之主而以正本可校合者也 高秀《花押》

墨付廿五枚歌数四百五十九首か

C (同)

我やとの梢の夏になる時は生駒の山のみへすなりぬる

ある人この御詠哥をみてや大和の菅原を御出生の地と

おもへりされとも菅原は御出生の所にはあらず

こひしさをなくさめかねて菅原や伏見にきてもねられさりけり

御先祖の御出所なれば北洛よりおりくならにきたり

たまふゆへなり

【備考】

B 「高秀」…未詳。

(86) ノートルダム清心女子大学附属図書館(F四三)

【マイクロ】三三二―一五四―六／紙焼写真ナシ／刊一冊／外題「菅贈太政大臣歌集」／内題「菅贈太政大臣歌集」〔首題〕・「東宰府蔵梓／菅贈太政大臣歌集」〔扉題〕

【翻刻】

A (跋文)

これらの哥ともをおきて世にこの公の歌と

となふるもの大かたは後人のつくれるもの也

ゆめくまとふへからすいはゆるよひのまや云々

などのことし今撰集のうちよりとりひろへ

るついでにいさゝか此よしをことわりおくのみ

藤原顕忠謹識

B (巻末)

製本所 誠格堂

【備考】

A 「藤原顕忠」↓13道真(84)

(87) 尊経閣文庫(P三七〇)

【紙焼写真】C一〇五四九／写一冊／外題「菅家詠草」／内題「天神御詠  
詔」／天神御詠詔と合

【翻刻】

A (天神御詠詔末尾)  
右一帖瑠璃之壺と云

(88) 尊経閣文庫 (P三七〇)

【紙焼写真】C一〇五四九／写一冊／外題「菅家詠草」／内題「天神御詠  
詔」／天神御詠詔と合

【翻刻】

A (天神御詠詔末尾)

此御詠哥は鎮西今川殿より度々御所望候間

二條殿より被遣秘哥也

B (卷末)

此百首御詠去年従或方令借用書写之

然如此一六一覽之処相違万多有之猶求

證本兩本之不同可決是非者也矣

慶長十二年<sub>丁未</sub>季冬上旬天

祐範判

C (同)

右尊詠二卷者以山州藤森

社司宮内権少輔春長邦之  
藏本所摸贍也

享保丁酉穀雨前二日

参議従三位菅原綱紀謹識

【備考】

A 「鎮西今川殿」↓13道真<sup>(2)</sup>

「二條殿」B 「祐範」↓13道真<sup>(31)</sup>

C 「春長邦之」…未詳。藤森社は山城国深草の藤森神社のことか。

「菅原綱紀」…前田綱紀。寛永二十年<sup>1643</sup>享保九年<sup>1724</sup>。

(89) 尊経閣文庫 (P三七〇)

【紙焼写真】C一〇五五〇／写一冊／外題「天神御詠歌」／内題「天神御  
詠歌七千首之内」〔首題〕・「天神御詠歌七十首之内／抜替」〔扉題〕・「天神  
御詠歌」〔帙外〕／夢窓国師と合

【翻刻】

A (見返し)

中く、それとも見えてかなしきは

花待山の峯のしら雲

B (天神御詠歌末尾)

以上五十三首

C (卷末)

右任所見令修覆者也

経慶

D (同)

右菅相公御詠草一卷者以

勤修寺垂相之藏本不違一字

令摺写之者也

延寶戊年秋日 菅《花押》

【備考】

C 「経慶」：勤修寺経敬か。正保元年1644～宝永六年1709。初名、経慶。宝

永四年1707に改名。慶安元年1648十二月～貞享元年1684十二月まで権大納

言。

D 「菅《花押》」：未詳。高辻豊長か。本姓、菅原。一字名、長。寛永

二年1625～元禄十五年1702。

(90) 龍谷大学図書館 (〇二二一五九一一二〇/四〇)

【影印】『龍谷大学善本叢書十八 四十人集 二』所収(一九九八年、思

文閣出版) / 写一冊 / 外題「聖廟御詠」 / 内題「聖廟御詠」 / 「四十人

集」のうち。御詠廿五首・十二時之御詠・聖廟御詠などと合

【翻刻】

A (聖廟御詠末尾)

此御詠ハ應安八年二月廿五日花山院僧正菅家ノ

一流秘書御傳受之御作不審條々被尋就之菅

宰相間家本勘出之以真本書寫之訖同雖及

撰文之相傳所望依難去出之貴方又他所不

可被出此本秘々而已 求之

康應元年七月廿五日書寫之イニナシ應永七年十二月十一日書寫之文安三曆八月七日書寫之

【備考】

A 「花山院僧正」 ↓ 13道真(1)

(91) 龍谷大学図書館 (〇二二一五九一一二〇/四〇)

【影印】『龍谷大学善本叢書十八 四十人集 二』所収(一九九八年、思

文閣出版) / 写一冊 / 外題「聖廟御詠」 / 内題「御詠廿五日」 / 「四十

人集」のうち。聖廟御詠・十二時之御詠・聖廟御詠などと合

【翻刻】

A (内題下)

今河殿依夢想掘出歌也

B (御詠廿五首末尾)

以上

于時康應第一己曆仲冬中旬五天書寫之

【備考】

A 「今河殿」 ↓ 13道真(2)

(92) 龍谷大学図書館 (〇二二一五九一一二〇/四〇)

【影印】『龍谷大学善本叢書十八 四十人集 二』所収(一九九八年、思

文閣出版) / 写一冊 / 外題「聖廟御詠」 / 内題「天神様御作十二時之御詠」 / 「四十人集」のうち。聖廟御詠・御詠廿五首・聖廟御詠などと合

【翻刻】  
A (十二時之御詠末尾)

御詠一冊事任上件奥書之旨鎮納匣底雖不出坊室依難去所望子細神慮不憚惡筆奉

摸寫之者也若於于拜見之砌者々深銘心肝

弥可奉低神臆之者也

于時長祿肆年仲冬下旬之比録之也

北野隱士法印權大僧都禪盛在判

為禪淨坊禪果上座御房書寫之比比カ

右之本書加様ニ有

【備考】

A 「北野隱士法印權大僧都禪盛」「禪淨坊禪果」 ↓ 13道真 (3)

(93) 龍谷大学図書館 (〇二二一五九一一二〇 / 四〇)

【影印】 『龍谷大学善本叢書十八 四十人集 二』所収 (一九九八年、思文閣出版) / 写一冊 / 外題「聖廟御詠」 / 内題「聖廟御詠」 / 「四十人集」のうち。聖廟御詠・御詠廿五首・十二時之御詠・聖廟御詠と合

【翻刻】 合集された歌集については13菅原道真(90) (92) (94) 参照

(94) 龍谷大学図書館 (〇二二一五九一一二〇 / 四〇)

【影印】 『龍谷大学善本叢書十八 四十人集 二』所収 (一九九八年、思文閣出版) / 写一冊 / 外題「聖廟御詠」 / 内題「聖廟御詠」 / 「四十人集」のうち。聖廟御詠・御詠廿五首・十二時之御詠・聖廟御詠と合

【翻刻】

A (卷末)

明應九年三月二日大雨の夜世間門く<sup>レ</sup>に書し哥

梅あらはしつか伏屋の門までも我立よらんあくましましりそけ

(95) 国文学研究資料館 (サ二一一二)

【原本】 写一冊 / 外題ナシ / 内題「聖廟御詠集」(巻首題)・「聖廟御詠集他」(帙外) / 十二時之御詠・御詠廿五首・御詠 廿五首と合

【翻刻】

A (聖廟御詠集末尾)

此御詠者應安八年二月廿五日花山院僧正

菅家之一流秘書御傳受之時御作不審

條々被尋就固雖及誓文〇求之朱 (朱) 相傳所望依

難去出之貴方又他所不可被出此本秘

而已求之

康應元年七月廿日書写之

應永七年十二月十一日書写之 (朱)

文安三年八月七日書寫之 (朱)

万治三年二月廿五日書寫之(朱)

B (卷末)

右御詠集云

北野宮仕瑞俊雖秘深以所望涉筆於六条

茅舎于時延宝<sup>辛</sup> 酉為陬月下旬

【備考】

A 「花山院僧正」 ↓ 13道真(1)

B 「瑞俊」 : 未詳。

(96) 国文学研究資料館(サニ一一二)

【原本】 写一冊／外題ナシ／内題「十二時之御詠」〔卷首題〕・「聖廟御詠集他」〔帙外〕／聖廟御詠集・御詠廿五首・御詠 廿五首と合

【翻刻】

A (卷末)

右御詠集云

北野宮仕瑞俊雖秘深以所望涉筆於六条

茅舎于時延宝<sup>辛</sup> 酉為陬月下旬

【備考】

A 「瑞俊」 ↓ 13道真(95)

(97) 国文学研究資料館(サニ一一二)

【原本】 写一冊／外題ナシ／内題「御詠廿五首」〔卷首題〕・「聖廟御詠集

他」〔帙外〕／聖廟御詠集・十二時之御詠・御詠 廿五首と合

【翻刻】

A (内題下)

今川殿依夢想被堀秘哥也

B (卷末)

右御詠集云

北野宮仕瑞俊雖秘深以所望涉筆於六条

茅舎于時延宝<sup>辛</sup> 酉為陬月下旬

【備考】

A 「今川殿」 ↓ 13道真(2)

B 「瑞俊」 ↓ 13道真(95)

(98) 国文学研究資料館(サニ一一二)

【原本】 写一冊／外題ナシ／内題「御詠 廿五首」〔卷首題〕・「聖廟御詠集他」〔帙外〕／聖廟御詠集・十二時之御詠・御詠廿五首と合

【翻刻】

A (御詠 廿五首末尾)

明應九年三月二日大雨の夜世間門くゝに書し哥

梅あらは賤かふせやの門までも我たちよらんあくましりそけ

B (卷末)

右御詠集云

北野宮仕瑞俊雖秘深以所望涉筆於六条

茅舎于時延宝<sup>辛</sup> 西為限月下旬

【備考】

B「瑞俊」↓13道真(95)

(99) 国文学研究資料館(ナニ二四八九)

【原本】写一冊／外題ナシ／内題「十二支」〔巻首題〕・「十二支」〔目録題〕・

「西湖八景・南都八景・近江八景他」〔帙外〕／西湖八景・南都八景・近江八景などと合

【翻刻】

A〔子〕題下)

天神御詠

〈奥書・刊記等ナシ〉

(100) 岡山大学附属図書館池田家文庫(P九二一―五二)

【マイクロ】二二―二五―一／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「菅家百首御詠歌」／内題「菅家御詠歌百首」

(101) 内閣文庫(二〇一―三五四)

【マイクロ】一九―二二六―一／紙焼写真C五〇〇〇／写一冊／外題「聖廟御集」(マイクロ不鮮明、調査カードによる)／内題「聖廟御集」

(102) 宮内庁書陵部(五〇一―五〇)

【マイクロ】二〇―三三―一九／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「菅家御集」／内題「菅家御詠」

(103) 宮内庁書陵部(二五三―二二四)

【マイクロ】二〇―三三六―二／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「菅家集」／内題「菅家御詠」〔首題〕・「菅家御集」〔扉題〕

(104) 宮内庁書陵部(三五二―二六二)

【マイクロ】二〇―四三―七／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「菅家御集」／内題「菅家御詠集」

(105) 宮内庁書陵部(二六六―一四)

【マイクロ】二〇―二二―一―七七／紙焼写真A二五／写一冊／外題「待需抄 六」／内題「十二時御詠 菅家御集」〔首題〕・「十二時御詠」〔目録題〕／「待需抄」のうち竹内家句題哥などと合

(106) 福井県立図書館松平文庫(M九二―二五)

【マイクロ】五四―一―二五八／紙焼写真C二七六一／写一冊／外題「集書 下」／内題「天神十二時御詠」／「集書」のうち十二月異名などと合

(107) 陽明文庫

【マイクロ】五五―四五一―／紙焼写真C二六四九／写一冊／外題「菅家集」／内題「菅家御詠」〔首題〕・「菅家集」〔扉題〕

(108) 今治市河野美術館(三五四―九三二)

【マイクロ】七三―三六一―六一―三／紙焼写真C九一七八／写一冊／外題「後水尾院御製和歌集／大原千句」／内題「菅相丞之御詠百首」／後水尾院御製・於大原野千句と合

(109) 八戸市立図書館(南一五一―三八四)

【マイクロ】九六―一六一―四／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「師傳書」／内題「十二支和歌 菅家御詠」〔首題〕・「十二支和歌」〔目録題〕／自讃哥序并和歌、六義和歌などと合

(110) 佐賀大学附属図書館鍋島文庫(〇九五五―一)

【マイクロ】二四六―二〇―五／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「天神御詠歌」／内題「天神御詠哥七千首之間」〔首題〕・「天神御詠歌」〔巻〕

(111) 祐徳稻荷神社中川文庫

【マイクロ】ユ一―六六―二―二／紙焼写真C二二七七／写一冊／外題ナシ／内題「十二支和歌 菅家御詠」〔首題〕・「十二支和歌」〔目録題〕／自讃哥・六義歌などと合

14 大江千里 [書目14・大成1―23]

〔奥書・刊記等アリ〕

(1) 東京大学文学部国文学研究室(本居帙一〇九―九七九)

【マイクロ】四―五八―九―三／紙焼写真C三二―三／写一冊／外題「清慎公 元良親王 千里集」／内題「大江千里集」〔序題〕／清慎公集・元良集と合

〔翻刻〕

A (序)

臣千里謹言去二月參議朝臣傳勅曰古今

歌多少献上奉命以後魂神不安卧重痾延

以至今儒門餘孽側聽言詩未習艷辭不知

所為ヒ臣纒搜古今句構成新調別且加自詠

十首總百廿首悚恐宸本搆謹以拳豈求驟目

只欲解頤千里誠恐惶誠謹言

寛平六年四月廿七日 散位從五位上大江朝臣千里上

B (千里集末尾)

本五 此本為忠卿之筆分明也並槐藤判

C (同)

安永八年四月廿四日校合了 元始

D (同)

雖入撰集不見家集哥

菅万 古今春上 六帖鶯

鶯の谷よりいつる聲なくは春くることをたれかしらまし

古今夏 六帖橘

やとりせしはなたちはなまかれなくなと郭公こゑたえぬらん

古今秋上 六帖の月

月見れはちゝにもものこそかなしけれ我身ひとつの秋にはあらねと

菅万下 古今秋下 六帖菊

うゑしとき花まちとほに有し菊移ふ秋にあはんとや見し

古今物名

のちまきのおくれて生るなへなれとあたにかならぬたのみとそきく

古今恋二ねになきてひちにしかとも春雨にぬれにし袖とはゝこたへ

ん／

同哀傷 もみちはを風にまかせて見るよりもはかなきものはいのちな

りけり／

【備考】

B 「為忠卿」：御子左（二条）。延慶二年1309頃～応安六年（文中二年）

1373。観応元年（正平五年）1350従三位。

「垂槐藤判」：未詳。

C 「元始」：未詳。

(2) 岡山大学附属図書館池田家文庫（P九二一／三一）

【マイクロ】一二一―一五―六／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「大江千里家集」／内題ナシ

【翻刻】

A（序前丁）

三首又心詞姿いづれと難申に落涙かなしくて

B（序）

臣千里謹言去二月十日参議朝臣傳

勅曰古今和歌多少献上奉命以後魂

神不安臥重痾延以至今臣儒門餘孽

側聽言詩未習艷辭不知所為今日纒

搜古句構成新調別且加自詠十首総

百廿首悚恐震攝以擧進豈求駭目唯

欲解願千里誠恐懼誠謹言

C（卷末）  
寛平六年四月二十五日如古今日六延本三年轉兵部大承云此位君不審散位従五位上大江朝臣千里上

右百廿首大江千里之倭詞也自寛平

六年二月十日至同四月廿五日之詠

看日数纒問詠也彼人一世之詠哥雖

可数首依時代今見稀也此後詞者吾

隨書見書加之今世雖有不好詞等古

風體儒門之詠詞何可捨乎不断勘可



被見之誠温故而知新之謂宜哉

文保二年六月四日 参議藤判

D (同)

寶曆四年<sup>甲戌</sup>季秋時雨降日借或人

本馳禿筆畢

竹里館主人

【備考】

C 「参議藤判」：飛鳥井雅孝。弘安四年1281〜文和二年（正平八年）1353。

D 「竹里館主人」：土肥経平↓11遍昭（良岑宗貞）(1)参照

(3) 内閣文庫（二〇一―五六六）

【マイクロ】一九―二七―紙焼写真C五〇〇二ノ写二冊ノ外題「江

千里詠草 全」ノ内題ナシ

【翻刻】

A (序)

臣千里謹言去二月十日参議朝臣傳勅

曰古今倭調多少献上奉命以後魂神不

安卧重痾延以至今臣儒門餘蘖側聽言

詩未習艶辭不知所為今臣纒搜古句構

成新調別<sup>并</sup>互加自詠十首総百廿首悚恐

震攝謹以拳進豈求駭目只願<sup>唯</sup>解頤千里

誠恐懼誠謹言

寛平六年四月二十五日<sup>即古今目録本三年調長地本云々此位不詳</sup>散位從五位上大江朝臣千里

B (十三丁オモテ)

右百廿首大江千里之倭調也自寛平

六年二月十日至同四月廿五日之詠

看日数纒間詠也彼人一世之詠哥雖

可有数首依隔時代今見稀也此後調

者吾隨所見書加之今世雖有不好之

詞等古風體儒門之詠調何可捨乎不

断勘可被見之誠温故而知新之謂宜

哉

文保二年六月四日 参議藤判

C (十三丁ウラ)

寛平の御時きさいのみやのうた合の哥

春

<sup>古今律上</sup>鶯の谷よりいつるこゑなくははるくることをいかてしまし

夏

いくらなつなきかへるらん芦引の山ほとゝきすこひははれすて

秋

<sup>古今律上</sup>うへしときはなまちとをにありしきく移ふあきにあはんとやみし

冬

ひかりまつえたにかゝれるゆきをこそ冬の花とはいふへかりけれ

恋

ほのみにし人におもひをつけそめて心からこそしたにこかるれ

古今夏  
やとりせしはなたちはなまかれなくなるとほとゝきす聲たえにけん

古今と和名  
ちまきといふことを

のちまきのをくれておふるなへなれとあたにはならぬたのみとそきく

題不知

古今恋二  
ねになきてひちにしかとも春雨にぬれにし袖とははゝこたへむ

古今恋三  
けさはしもおきいてんかたもしらさりつおもひ出るそ消てかなしき

やまひにわつらひて侍ける比こゝちのたのもしけなく

古今真備  
おほえければよみて人のもとへつかはしける

もみちはを風にまかせてみるよりもはかなきものはいのちなりけり

古今上  
寛平の御時うたたてまつりけるつゝるてにたてまつりける

古今上  
芦たつの独をくれてなく聲は雲のうへまできこえつかなん

題不知

しらゆきとともに我身はふりぬれと心はきえぬものにそありける

後撰秋上  
つゆかけし袂ほすまもなきものをなと秋風のまたきふくらん

世中の心になはぬなと申ければゆくさきたのもしき

身にてかゝる事あるましきと人の申侍ければ

後撰秋上  
なかれてのよをもたのます水上のあはにきえぬるうき身と思へは

つみなかりしかとも人の事につきてしはらく籠居す

へきよしありしころ式部大輔のもとへこまやかに

申をくりしふみのをくに

大正問答  
みやこまで波立くともきかなくにしはしたになと身のしつむらん

かへし  
千古朝臣

しつむみときくから袖に波かけてうしろやすくはいかておもはん

美材朝臣のもとにて山月照といへる事を

いつくにかこよひの月のくもるへき小倉の山も名をやかふらん

松樹不変色

大正問答  
はなをめてもみちをめつる猶くもつねなる松は猶もめてたし

式部大輔の庭の花みんとてこれもかれもまかりて

木のもとに立よりてさけなとたうへてよみ侍ける

さかつきのかけさしそへておもふとち花にまるとのあかぬへらなり

難波にとまりてよみ侍ける

なにはへやおきつすとのねぬ聲も旅なる人そ哀とはきく

おほふねはかけてとまりのたゆたひのたひなる人はねられさりけり

ものへまかり侍けるにはゝの例ならぬときゝて帰るとて

秋の日はやまのはちかしくれぬまにはゝにみえなんあゆめあかこま

薄暮鳥鵲飛

雲まとひ夕のあめもおつる江にからすもさきもしほれてそゆく

伊豫の任に侍ける時よみ侍ける

うみ山のめつらかなるにむかひても都にみはとおもふ心あり

あした

けさはしもおきけんかたもしらさりつおもひ出るそきえてかなしき

明つよりいてゝやきつるみつしほのひるまはゝかりもみねは恋しき

あふことはゆめか星合のあさかせに恋しき波のよりこしほとに

きく

秋をゝきてときこそ有れきくの花移ふ秋にあはんとやみし

なにしをく色そめかへしあめふらん花もてはやすきみもこなくに

たかななを人のもとにたてまつるとて

秋もこは花にもみはやさをしかのふみしたかななをしき夏草

うめ

折人のてにも袖にも梅かゝはかきりなくこそしみわたりけれ

立よればにはひを袖にうつすこそ花もさすかの心あるなる

いゑさくら

むかひるてあかすそおもふいゑさくらくるとあくとにめをもはなた

て

伊豫の任に侍けるとき人のふなてし侍けるに

あふきにそへてつかはしけるうた

いまはとてこき出るふねのさはりなみ扇のかせはへにもかけなん

あつまにまかる人にあふみをやるとて

あつまちへたてはつともむさしあふみふみたかふなと思ひてそや

る

いはひ

すみの江のはまのまさこはかきりなくきみか世々へん数にとるへし

【備考】

B「参議藤判」↓14大江千里(2)C参照

C「式部大輔」「千古朝臣」…大江千古。生年未詳、延長二年924。

「美材朝臣」…小野美材。生年未詳、延喜二年902。

(4) 宮内庁書陵部(五一一―三三)

【マイクロ】二〇―二七―二一―紙焼写真ナシ／写一冊／外題「大江千

里集付匡衡集」／内題ナシ／匡衡集と合

【翻刻】

A(序)

臣千里謹テ言ス去シ二月十日参議某ノ朝臣傳テ勅ヲ曰ク

古シ今マノ和哥多クモ少クモ獻ツレ上臣奉ハテ命ヲ以ヨリ後魂神不レ安

遂臥レ延ニ以至ル今ニ臣ハ儒門ノ余孽、側、聽言詩ヲハ未ス

習艶辞ヲハ不レ知所レモ、為ス今臣僅枝テ古キ句ヲ構成ナセリ新詞

別今加タリ自ミ詠ヲ古今ノ物ヲ百廿首悚恐震懼謹以擧

進ツル豈求ヤ、駭ヲ目ヲ欲解レト、顎ヲ千里誠恐懼誠謹言

寛平九年四月廿五日

散位従六位上大江朝臣千里

B(匡衡集末尾)

一校了

(5) 宮内庁書陵部(一五〇―二一〇)

【マイクロ】二〇―三〇―一―二―紙焼写真ナシ／写一冊／外題「永縁

奈良房歌合」／内題ナシ／永縁奈良房歌合・長綱百首と合

【翻刻】

A (序)

臣千里謹言去二月十日參議朝臣傳勅

曰古今和調多少献上奉命以後魂神

不安臥重痾延以至今臣儒門餘藻側

聽言詩未習艷辞不知所為今日纒搜

古句構成新調別互加自詠十首惣百

廿首悚恐震攝謹以舉進豈求駭目

只願解頤千里誠恐懼誠謹言

寬平六年四月二十五日 散位從五位上大江朝臣千里

B (三一丁オモテ)

右百廿首大江千里之和哥也自寬平六年

二月十日至同四月廿五日之詠看日數纒

間詠也彼人一世之詠哥雖可有數首依隔

時代今見稀也此後哥者吾隨所見書加

之今世雖有不好之詞等古風體儒門之詠

哥何可捨乎不斷勘可被見之誠温故而

知新之謂宜哉

文保二年六月四日 參議藤判

C (三一丁ウラ)

寬平の御時きさいのみやのうた合の哥

春

鶯の谷よりいつるこゑなくははるくることをいかてしらし

夏

いくらなつなきかへるらん芦引の山郭公こひははれすて

秋

うへしときはなまちとをにありしきく移ふあきにあはんとやみし

冬

ひかりまつえたにかゝれるゆきを社冬のはなとはいふへかりけれ

恋

ほのにみし人におもひをつけ初て心からこそしたにこかるれ

やとりせしはなたちもかれなくなるとほとゝきす声たえにけん

たかんなを人のもとにたてまつるとて

秋もこは花にもみはやさをしかのふみしたかんなをしき夏草

うめ

折人のも袖にも梅かゝはかきりなく社しみわたりけれ

立よればにほひを袖にうつす社はなもさすかの心あるなる

いゑさくら

むかひるであかすおもふいゑさくらくるとあくとにめをもはなたて

伊豫の任に侍けるととき人のふなてし侍りけるに

あふきにそへてつかはしけるうた

いまはとてこきいつるふねのさはりなみ扇のかせはへにもかけなん

あつまにまかる人にあふみをやるとて

あつまちへたてはつともむさしあふみふみたかふなと思ひてそやる

いはひ

すみの江のはまのまさこはかきりなくきみか世々へん数にとるへし

【備考】

B「参議藤判」↓14大江千里(2)C参照

(6) 国立歴史民俗博物館高松宮家本(H一六〇〇一四六二△函一五二)

【マイクロ】二一一〇九一三/C五五六/写一帖/外題「大江千里集」

／内題「大江千里集」〔序題〕

【翻刻】

A (序)

臣千里謹言去二月十日参議朝臣傳

勅曰古今和歌多少献上奉 命以後

魂神不安卧重痾延以至今臣儒門餘

孽側聽言詩未習艶辞不知所為

今臣纔搜古句構成新詞別且加自

詠十首惣百首悚恐震攝謹以舉

進豈求駭目只欲解頤千里誠恐懼誠謹言

寛平六年四月廿五日

本云／如古今目六延木三／年散位從五位上大江朝臣千里上  
轉兵部大丞云々／此位替不違

B (卷末)

建曆元年正月日 定家

【備考】『国立歴史民俗博物館蔵 貴重典籍叢書 文学篇 第七卷 私家

集 1』(二〇〇一年三月、臨川書店)に影印アリ。

(7) 水府明德会彰考館(巳五—〇六九一九)

【マイクロ】三三—二八三一六—/C七〇三四/写一冊/外題「千里集

聖廟御集 是則集/公忠集 長能集 全」/内題「大江千里集」

〔序題〕/聖廟御集・是則集・公忠集・長能集と合

【翻刻】

A (序)

臣千里謹言去二月十日参議朝臣

傳 勅曰古今和歌多少献上奉

命以後魂神不安卧重痾延以至今

臣儒門餘孽側聽言詩未習艶辞不

知所為今臣纔搜古句構成新詞別

且加自詠十首惣百首悚恐震攝謹

謹以舉進豈求駭目只欲解頤千里

誠恐懼誠謹言

寛平六年四月廿五日

散位從五位上大江朝臣千里

(8) 水府明德会彰考館(巳八—〇七〇三二)

【マイクロ】三三—二九〇—/C七〇八〇/写一冊/外題「大江千里集

全」/内題「大江千里集」〔扉題〕

【翻刻】

A (序)

臣千里謹言去二月十日參議朝臣

傳勅曰古今和調多少献上奉命

以後魂神不安卧重痾延以至今

臣儒門餘孽側聽言詩未習艷辭

不知所為今臣纔搜古句構成新

調別互加自詠十首惣百廿首悚

恐震描謹以奉進豈求駭目只頭

解頤千里誠恐誠懼謹言

寬平六年四月二十五日

散位從五位上大江朝臣千里

(9) 神宮文庫(三一—一〇五)

【マイクロ】三四—三六一— / C七〇 / 写一冊 / 外題「大江千里家記」

全 / 内題ナシ

【翻刻】

A (序)

臣千里謹言去二月十日參議朝臣傳

勅曰古今和歌多少献上奉命以後魂

神不安卧重痾延以至今臣儒門餘孽

側聽言詩未習艷辭不知所為今臣纔

搜古句構成新調別且加自詠十首総

百廿首悚恐震描以舉進豈求駭目唯

欲解頤千里誠恐誠懼謹言

寬平六年四月二十五日 散位從五位上大江朝臣千里上

B (卷末)

右百廿首大江千里之倭調也自寬平

六年二月十日至同四月廿五日之詠看日

數纔間詠也彼人一世之詠哥雖可數

首依時代今見稀也此後哥者吾隨

所見書加之今世雖有不好詞等古

風體儒門之詠調何可捨乎不斷勘

可被見之誠温故而知新之謂宜哉

文保二年六月四日 參議藤判

C (同・奉納印)

天明四年甲辰八月吉旦奉納

皇太神宮林崎文庫以期不朽

京都勤思堂村井古巖敬義拜

【備考】

B 「參議藤判」 ↓ 14 大江千里(2) C 參照

C 「村井古巖敬義」 ↓ 2 柿本人麻呂(6) B 參照

(10) 賀茂別雷神社三手文庫今井似閑本(歌 / 申 / 二三三)

【マイクロ】三九一—二一八—C二〇四八／写一冊／外題「大江千里集／瓊玉和歌集宗尊親王家集」／内題「大江千里集」後醍醐天皇御代（序題）・「大江千里集」  
〔扉〕／瓊玉和歌集と合

【翻刻】

A (扉裏書入)

千五百番歌合夏三判左大臣後京極摂政良経公序云

菅家萬葉集ハ以テ詩讀ト歌大江千里カ詠ハ以テ詩ヲ為レ題ト蓋和漢之詞

同類相求ムルノ之故ナリ也云々

B (序)

臣千里謹言去二月參議朝臣傳

勅曰古今謠多少献セコト上奉レ命以後魂シ

神不レ安卧ニ重痾ニ延以テ至今備門ノ餘孽側ニ

聽レ言レフラ詩ヲ未レク習ニ艶辞ヲ不レ知ニ所センヲ為レ今臣纒ニ搜ニ

古今ノ句ヲ構ニ成新謠ニ別ニ且加ニ自詠十首ヲ惣テ

百廿首ニ悚恐宸構謹以舉豈未驟目只

欲解頸千里誠恐惶誠謹言

寛平六年四月廿七日

散位從五位上大江朝臣千里上

後撰云  
伊与守五位  
三木音人字  
延喜二五廿九卒

C (序文上段書入)

今百廿五首在

D (千里集末尾)

六帖鶯の谷よりいつる声なくは春くることをたれかしらつげまし古今春上  
菅万やとりせし花橋もかれなくなると時鳥声たえぬえらん同夏  
六橋同夏

きなかさる六

これさたのみこの家哥合によめる

六 秋の月 月みればちゝに物こそかなしけれ我身ひとつの秋にはあらねと同秋

寛平御時きさいの宮の哥合のうた

六 菊うへし時花まちとをにありし菊うつるふ秋にあはんとやみし同秋  
菅万うへし時花まちとをにありし菊うつるふ秋にあはんとやみし同秋

六 朝けさはしもおきけんかたもしらさりつ思出るそ消てかなしき同恋  
六 朝けさはしもおきけんかたもしらさりつ思出るそ消てかなしき同恋

やまひにわつらひ侍ける秋こちのたのもしけなくおほへ

ければよみて人のもとにつかはしける

紅葉を風にまかせてみるよりもはかなき物そ命成けり同哀傷

しら雪のともて我身はふりぬれと心はきえぬ物にそありける同俳諧

露かけし袂ほすまなき物をなと秋風のまたき吹らん後せん  
大江千里

十月計に大江千里かもとにあはんとてまかりたりけれとも侍らぬ

程なれば帰りまてきてたつねてつかはしける

藤原忠房朝臣

六もみちはゝおしき錦とみしかとも時雨とゝもにふりてこそちてし同

返し 大江千里

六もみち葉も時雨もつらしまれにきてかへらん人をふりやとゝめぬ同

よの中の心になはぬなと申ければゆくさきたのもの

き身にてかゝる事あるましと人の申侍ければ

なかれてのよをもたのます水の上のあはに消ぬるうき身と思へは同

六 深養父 いくつにか今宵の月のくもるへきおくらの山も名をやかふらん  
新古今秋  
大江千里

ちさとさたふんとこそ六

六秋をおきて時こそ有けれ菊の花移ふからに色のまされば

暮秋の心を 大江千里

山因縁九月序さむむし秋もくれぬとつくるかもまきの葉ことにおける朝霜

E (瓊玉和歌集末尾)

此一冊者以禁中御證本留写畢

慶長三年三月日 左少将基任

重而可加清書也

【備考】

D 「藤原忠房朝臣」…生年未詳…延長六年928。延喜元年901從五位下。

「さたふん」…平定文。生年未詳…延長元年923。

E 「左少将基任」…園基任。元龜四年1573…慶長十八年1613。天正十七年1589

…慶長十三年1608まで左少将。

(11) 大阪府立大学学術情報総合センター森文庫(九二一・二三八〇EC)

【マイクロ】五一一七一一一／C七六七八／写一冊／外題「句題和

歌／朗詠百首」／内題「句題和歌」(序題)／朗詠百首と合

【翻刻】

A (序)

臣千里謹言去二月十日参議朝臣傳勅曰古今和

調多少献上奉命以後魂神不安卧重病延以至今

臣儒門餘孽側・言詩未習艶辞不知所為今臣纔

搜古句構成新調別亦加自詠十首惣百廿首悚恐

震攝謹以舉進豈求駭目只欲・願千里誠恐懼誠

謹言

寛平六年四月廿五日 散位從五位上大江朝臣千里

B (句題和歌末尾・十四丁オモテ)

右百廿首大江千里之和哥也自寛平六年二月

十日至同四月廿五日之詠看日数纔間詠也彼

人一世之詠哥雖可數首依隔時代今見稀也

此後哥者吾随所見書加之今世雖有不好之詞

等古風體儒門之詠哥何可捨乎不断勘可被見

之誠温故而知新之謂宜哉

文保二年六月四日 参議藤判

C (同・十四丁オモテ)

寛平の御時きさいのみやのうた合の哥春

鶯の谷よりいつる聲なくは春くることをいかてしらまし

夏

いくらなつなき帰るらん足引の山ほとゝきす聲ははれすも

秋

うへしときはなまちとをにありしきく移ふあきにあはんとやみし

冬



光りまつえたにかゝれる雪を社冬のはなといふへかりけれ

恋

ほのみにし人に思ひをつけ初て心からこそしたにこかるれ

やとりせしはなたちもかれなくなと郭公聲たえにけん

ちまきといへることを

のちまきのをくれておふるなへなれとあたにはならぬ頼みとそきく

題不知

ねに鳴てひちにしかとも春雨にぬれにし袖と<sup>と</sup>はこたへん

やまひにわつらひて侍ける比こちのたのもしけなく

おほえければよみて人のもとへつかはしける

紅葉はを風にまかせてみるよりもはかなき物は命なりけり

寛平の御時うたゝてまつりけるつゐてにたてまつ

りける

あしたつの独をくれて鳴聲は雲のうへまで聞えつかなん

題不知

しらゆきのともに我みはふりぬれと心はきえぬ物にそ有ける

つゆかけし袂をほすまもなきものをなと秋風のまたき吹らん

世中の心にはかなはぬなと申ければゆくさきたのもしき

身にてかゝる事あるましきと人の申侍ければ

なかれてのよをもたのます水上のあはにきへぬるうきみと思へは

つみなかりしかとも人の事につきてしはらく籠居

すへきよしありしころ式部大輔のもとへこまやか

に申をくりしふみのおくに

みやこさて波立くともきかなくにしはしたになとみのしつむらん

かへし

千古朝臣

しつむかと聞から袖に波かけてうしろやすくはいかて思はん

美材朝臣のもとにて山月照といへる事を

いつくにかこよひの月のくもるへきをくらの山も名をやかふらん

松樹不変色

はなをめて紅葉めつる折くもつねなる松は猶もめてたし

式部大輔の庭のはなみんとてこれもかれもまかりて木の

もとにたちよりてさけなとたうへてよみ侍ける

盃のかけさしそへて思ふとちはなにまとゐのあかぬへら也

難波にとまりてよみ侍ける

なには江やおきつすとのねぬこゑも旅なる人そ哀とはきく

おほふねはかけてとままりのたゆたひの旅なる人はねられさりけり

ものへまかり侍けるにはの例ならぬときゝて帰るとて

秋の日はやまのはちかしくれぬまにはにみえなんあめのあかこま

落暮鳥鵲花

空まとひ夕の面もおつる江にからすも鵲もしほれてそ行

伊豫の任に侍ける時よみ侍ける

うみやまのめつらかなるにむかひてもみやこにみはと思ふ心あり

あした

けさはしもおきけんかたもしりさりつ思ひ出んそきえてかなしき

明るよりいて、やまつるみつしほのひるまはかりもみねは恋しき  
あふことはゆめか星合の朝風にこひしき波のよるみしほとに

きく

秋を、きて花社ありけれきくの花移ふ秋にあはんとやみし

なにしおふ色そめかへし雨ふらん花もてはやす君もこなくに

たかんなを人のもとにたてまつるとて

秋もこは花にもみはやさをしかのふみしたかんなおしき夏草

うめ

折人のでにも袖にも梅香かはかきりなくこそしみわたりけれ

立よればはほひを袖にうつす社花もさすかの心あるなるなれ

いへさくら

むかひみてあかすそ思ふいへ桜くるとあくとにめをもはなたて

伊豫の任に侍けるとき人のふなてし侍りけるに

あふきにそへてつかはしけるうた

いまはとてこき出る舟のさはりなみ扇のかせはへにもかけなん

あつまにまかる人にあふみをやるとて

あつまちへたてはつともむさしあふみふたかふなと思ひてそやる

いはひ

すみの江のはまのまさこはかきりなく君か世々へん数にとるへし

D (同)

右大江千里句題和歌以一本校合

E (朗詠百首末尾)

此一冊ハ 千萱の君手自書うつし給へるか故ありて不用  
になりたるを價をさゝけて買もとめたる也

安政二年正月

【備考】

B 「参議藤判」↓14大江千里(2)C参照

C 「式部大輔」「千古朝臣」↓14大江千里(3)C参照

E 「千萱の君」…千萱義利(文化六年1809〜安政三年1856)か。

「井阪徳辰《花押》」…文化八年1811〜明治十四年1881。

(12) 大阪市立大学学術情報総合センター森文庫(九二・一四八OEC)

【マイクロ】五一―一七―一三/C七六七九/写一冊/外題「大江千里集」

／内題「大江千里集」(序題)

【翻刻】

A (序)

臣千里謹言去二月参議朝臣傳

勅曰古今詞多少献上奉 命

以後魂神不安卧重痾延以至今

儒門餘孽側聽言詩未習艶辞

不知所為今臣纔搜古今句構成

新詞別且加自詠十首惣百廿首

悚恐宸搆謹以舉進豈求驟目只

欲解願千里誠恐惶誠謹言

寛平六年四月廿七日

散位従五位上大江朝臣千里上

B (卷末)

此本為忠卿之筆分明也

〔備考〕

C (同)

従六位上 藤原永弘《青木》

〔備考〕

B 「為忠卿」「丑槐藤判」↓14大江千里(1)B参照

C 「藤原永弘《青木》」…青木永弘。明暦二年1656〜享保九年1724。神道家。

靈元院に『日本書紀』神代巻を講じるなどして、従六位上に叙される。

(13) 山口県立山口図書館(九七)

【マイクロ】六〇―四三―五―一／C三六三九／写一冊／外題「大江千里

集／瓊玉和歌集」／内題「大江千里集」〔序題〕・「大江千里集／瓊玉和

歌集宗尊親王家集」〔扉題〕／瓊玉和歌集と合

【翻刻】

A (序)

臣千里謹テ言去二月參議朝臣傳

勅ヲ曰古今ノ調多少ソコハク献上ト奉レ命以後魂

神不<sub>レ</sub>安<sub>レ</sub>重<sub>レ</sub>痾<sub>レ</sub>延<sub>レ</sub>テ至<sub>レ</sub>今<sub>レ</sub>儒門ノ餘側ニ

聴<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>詩ヲ未<sub>レ</sub>習<sub>レ</sub>艶辞ヲ不<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>所為<sub>レ</sub>今<sub>レ</sub>臣纒ニ搜ニ

古今ノ句ヲ構ニ成新調ヲ別ニ且加<sub>レ</sub>自詠十首ヲ愍テ

今百二十五首在百廿首一悚恐宸捕謹以舉豈未驟目

只欲解頤千里誠恐惶誠謹言

寛平六年四月廿七日

散位従五位上大江朝臣千里上

後撰云 伊与守五位 三木音人子

延喜・五年廿九卒

B (千里集末尾)

六帖春菅万 古今春上

鶯の谷よりいつるこゑなくははる来ることをたれかしらまし

六帖橘 同夏

やとりせし花橘もかれなくなるとほととぎすさなかさる六こゑたえぬらん

六秋の月同秋これさたのみこの家の哥合により同

月みれば千々にもこのそかなしけれわか身ひとつの秋には有ねと

六菊管万同秋寛平の御とききさいの宮の哥合の哥同

うへしとき花まちとをに有し菊うつるふ秋にあはんとやみし

同物名

のちまきををくれておふるなへなれとあたにはならぬたのみとそ聞

同恋

ねになきてひちにしかとも春雨にぬれにし袖ととはこたへん

六朝同恋

今朝はしも起けん方は知さりつ思ひ出るそきてかなしき

やまひにわつらひはへりける秋こゝちのたのもしけなく覚え

ければよみて人のもとにつかはしける 同

同哀傷

紅葉を風にまかせてみゆるよりはかなきものはいのちなりけり

同俳諧

同

白雪の共に我身はふりぬれと心はきえぬものにそありける

六後撰

同

露<sup>わか</sup>かけし袂ほす間もなきものをなと秋風の早速ふくらん

十月計に大江の千里かもとにあはんとてまかりたり

けれども侍らぬほとなれば帰りまてきてたつねて

つかはしける

藤原忠房朝臣

六帖

丹葉はをしき錦とみしかとも時雨とゝもにふりてこそこし

六帖 返し

大江千里

丹葉も時雨もつらしまれにきてかへらん人をふりやとゝめん

よの中の心になはぬなと申ければゆくさきたのものし

同 き身にてかゝること有ましと人の申はへりければ

なかれてのよをも頼す水のうへの淡にきえぬるうきみと思へは

新古秋上深養父 ちさとさたふんとこそ六 大江千里

いつくにか今夜の月のくもるへきおくらの山も名をやかふらん

六古今秋貞文

秋をおきて時こそ有けれ菊の花移ろふからに色のまさればは

朗詠九月尽 暮秋の心を

大江千里

山寒し秋もくれぬとつくるかもまきの葉ことにおける朝しも

風雅雜

D (瓊玉和歌集末尾)

此一冊者以禁中御證本留写畢

慶長三年三月日 左少将基任

重而可加清書也

【備考】

C 「藤原忠房朝臣」D 「左少将基任」↓14大江千里(10)D参照

(14) 今治市河野美術館 (三四六一八三九)

【マイクロ】七三―三五四―三/C九二二六/写一冊/外題「大江千里集」

／内題「大江千里集」(序題)・「大江千里集」(扉題)

【翻刻】

A (序)

臣千里謹言去二月参議朝臣傳勅曰古今

歌多少獻上奉命以後魂神不安卧重痼延

以至今儒門餘孽側聽言詩未習艶辭不知

所爲ヒ臣纒搜古今句構成新詞別且加自詠

十首總百廿首悚恐宸構謹以舉豈求驟目

只欲解頤千里誠恐惶誠謹言

寛平六年四月廿七日散位従五位上大江朝臣千里上

B (巻末)

本五 此本為忠卿之筆分明也垂槐藤判

C (同)

安永八年四月廿四日校合了

D (同)

雖入撰集不見家集哥

昔方 古今卷上六帖 鶯の谷よりいつる聲なくは春くることをたれかしらまし

古今 六帖 やとりせしはなたちはなまかれなくなと郭公聲たえぬらん

古今 六帖の月 月みればちゝにもこのそかなしけれ我身ひとつの秋にはあらねと

昔方下 古今秋下六帖 うゑしとき花まちとほに有し菊移ふ秋にあはんとやみし

古今 物名 のちまきのおくれて生るなへなれとあたにはならぬたのみとそきく

古今 卷二 ねになきてひちにしことも春雨にぬれにし袖とゝはゝこたへん

同 或冊 もみちはを風にまかせてみるよりもはかなきものは命なりけり

【備考】

B 「為忠卿」「垂槐藤判」↓14大江千里(1)B参照

(15) 今治市河野美術館(三四七―八五四)

【マイクロ】七三―三三六三一六/C九一八八/写一冊/外題「大江千里集」

／内題「大江千里集」(扉題)

【翻刻】

A (表紙右)

花百五十一全一

B (序)

臣千里謹言去二月十日参議朝臣傳

勅曰古今和調多少獻上奉 命以後魂

神不安臥重痼延以至今儒門餘

孽側聽言詩未習艷辞不知所為今臣

纔搜古句構成新調別互加自詠

十首惣百廿首悚恐震攝謹以舉進

豈求驟目只欲解頤千里誠恐懼

誠謹言

寛平上六年四月廿五日

本云如古今目六延本三年轉 兵部大丞云々此位署不審 散位従五位上大江朝臣千里上

C (巻末)

此一冊寂蓮法師以自筆本

令書寫再三加校合畢

D (同)

一覽令尋校了 葛

【備考】

D 「葛」…未詳。

(16) 名古屋市鶴舞中央図書館(河オ―三七)

【マイクロ】八九―三四一七/紙焼写真ナシ/写一冊/外題「江千里奉進

集 全 / 内題「大江千里奉進歌集」〔首題〕・「大江千里奉進詞集」〔序題〕

【翻刻】

A (序)

進詞章表

臣千里言去二月十日參議朝臣奉宣

勅命令臣古今和調多少獻上和歌教章奉命已後

神魂不安忽卧重痾延以至今日多罪多罪臣儒門餘

藥嘗言詩未習艷辭恩命忽降不知所為纒搜古

句構成新調別加詠懷十首愍得百二十首悚恐震

懼謹以奉進豈求悅目只供解頤臣千里誠恐惶誠恐

頓首謹言

寬平六年四月二十五日

散位從五位上大江朝臣千里上

B (序上段書入)

益根按古今和歌多少六字 / 衍

C (同)

益根按作者 / 部類曰從五 / 位下兵部大 / 丞上疑下誤 / 或愍五六誤

【備考】

B C 「益根」…河村益根。宝曆六年1756 / 文政二年1819。国学者、儒者。

【マイクロ】二四六一—八一— / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題「大江千里集」 / 内題「大江千里集」〔序題〕

【翻刻】

A (序)

臣千里謹言去二月十日參議

朝臣傳 勅曰古今和調多少獻

上奉 命以後神魂不安卧重

痾延以至今臣儒門餘孽側

聽言詩未習艷辭不知所為

今臣纒搜古句構成新調別

且加自詠十首愍得百廿首悚恐

震掃謹以舉進豈求驟目只

欲解頤千里誠恐惶誠謹言

寬平六年四月廿五日

本云以古今目八延本三年轉兵部大丞云々此位器不審 散位從五位上大江朝臣千里

B (卷末)

右者以寂蓮法師自筆本

寬文七年十二月下浣不違

字形透寫之畢

五品藤 《花押》

【備考】

B 「五品藤 《花押》」…未詳。

(17) 佐賀大学附属図書館鍋島文庫 (〇九五四—二)

(18) 佐賀大学附属図書館鍋島文庫(〇九五四一三)

【マイクロ】二四六一―八一三／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「大江千里集上」／内題「大江千里集」〔序題〕

【翻刻】

A (序)

臣千里謹言去二月十日參議

朝臣傳 勅曰古今和調多少獻

上奉 命以後魂神不安臥重

痾延以至今臣儒門餘孽側

聽言詩未習艷辭不知所為

今臣纔搜古句構成新調別

且加自詠十首惣百廿首悚恐

震攝謹以舉進豈求驟目只

欲解頤千里誠恐懼誠謹言

寛平六年四月廿五日

本云如古今日延木三年碑  
兵部大丞云々此位書不審 散位從五位上大江朝臣千里上

B (卷末)

以寂蓮法師自筆本

寛文八年初春念六

不違字形透寫之畢

樂山

【備考】

B「樂山」：鍋島直能。元和八年1623（元禄二年1689。肥前小城藩藩主。

(19) 多和文庫(五・七)

【マイクロ】二七一―八二一六／C一〇四三／写一冊／外題「大江千里句題倭歌」／内題「句題和歌」〔序題〕

【翻刻】

A (序)

臣千里謹言去二月十日參議朝臣傳勅

曰古今和調多少獻上奉命以後魂神不

安臥重痾延以至今臣儒門餘孽側聽言

詩未習艷辭不知所為今臣纔搜古句構

成新調別々加自詠十首惣百廿首悚恐

震攝謹以舉進豈求驟目只欲解頤千里

誠恐懼誠謹言

寛平六年四月廿五日

散位從五位上大江朝臣千里

B (序文上段書入)

忽字典楊慎曰／忽即古亦字

搗玉篇盈手也／字彙持挽捉握／也

C (卷末)

大江千里句題倭詞以群書類從卷百

七十九抄之然原本卷末附文保二年

寛平六年四月廿七日

参議藤原卿之追書及千里詠歌諸集

散位從五位上大江朝臣千里上

所載若干而今略焉

文政二季初稿

源正宣識

B (卷末)

<sup>本上</sup>此本為忠卿之筆分明也

亜槐藤判

【備考】

C 「参議藤原卿」↓14大江千里(2)C参照

B 「為忠卿」「亜槐藤判」↓14大江千里(1)B参照

「源正宣」：山川正宣。寛政二年1790、文久三年1863。国学者。

(21) ノートルダム清心女子大学附属図書館(C三三/一一)

(20) 金沢市立玉川図書館稼堂文庫(〇九一・八一三三七)

【マイクロ】二七四―二二一四／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「大江千里集」／内題「大江千里集」〔序題〕

里集

里集／御堂関白集／平忠盛集／内題「大江千里集」〔序題〕・「大江千里集 御堂関白集／源賢集 平忠盛集」〔扉題〕／御堂関白集・忠盛集と合

【翻刻】

【翻刻】

A (序)

A (表紙右下)

臣千里謹言去二月参議朝臣傳

岸本由豆伎校本

勅曰古今謂多少獻上奉 命

B (扉題右傍)

以後魂神不安卧重痾延以至今

群書類從第七十九大江千里句題和歌トアリ

儒門餘孽側聽言詩未習艷辭

C (序)

不知所為今臣纒搜古今句構成

新調別且加自詠十首惣百廿首

臣千里謹言去一月参議朝臣傳勅曰古今歌多少

悚恐宸搆謹以舉豈求驟目只

獻上奉命以後魂神不安卧重痾延以至今儒門

欲解願千里誠恐惶誠謹言

餘孽側聽言詩未習艷辭不知所為<sup>(今)</sup>臣纒搜古今



句構成新調別且加自詠十首總百廿首悚恐宸構  
謹以拳豈求驟目只欲解頤千里誠恐惶誠謹言

寬平六年四月廿七日散位從五位上大江朝臣千里上

D (千里集末尾)

<sup>本法</sup>此本為忠卿之筆分明也並槐藤判

【備考】

A 「岸本由豆伎」…朝田由豆伎とも。文政四年1821〜嘉永四年1851。

D 「為忠卿」…為忠卿の誤りか。↓14大江千里(1)B参照

「並槐藤判」↓14大江千里(1)B参照

(22) 島原図書館肥前鳴原松平文庫(二三五一)

【マイクロ】三五八一—三七二／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「大江千

里集」／内題「大江千里集」〔序題〕

【翻刻】

A (序)

臣千里謹言去二月十日參議朝臣

傳 勅曰古今和調多少獻上奉

命以後魂神不安臥重痾延以至今

臣儒門餘孽側聽言詩未習艷辭不

知所為今臣纔搜古句構成新調別

忽加自詠十首惣百廿首悚恐宸構

謹以拳進豈求駭目唯欲解頤千里

誠恐懼誠謹言

寬平六年四月廿五日

如古今目六延木三年轉  
兵部大丞云云此位畧不重

散位從五位上大江朝臣千里上

(23) 龍谷大学図書館(〇三二—五九一—四〇〇/四〇)

【影印】「龍谷大学善本叢書18 四十人集 三」(一九九八年三月、思文閣出版)／写一冊／外題「大江千里集」／内題「大江千里集」〔序題〕

【翻刻】

A (序)

臣千里謹言去二月參議朝臣傳勅曰古今

歌多少獻上奉命以後魂神不安臥重痾延

以至今儒門餘孽側聽言詩未習艷辭不知

所為臣纔搜古今句構成新調別且加自詠

十首總百廿首悚恐宸構謹以拳豈求驟目。

只欲解頤千里誠恐惶誠謹言。

寬平六年四月廿七日散位從五位上大江朝臣千里上

B (卷末)

本云此本為忠卿之筆分明也並槐藤判

C (同)

安永八年四月廿四日校合了 元始

D (同)

雖入撰集不見家集哥

萬方古今上 六帖  
鶯の谷よりいつる聲なくは春くることをたれかしらまし

古今夏 六帖  
やとりせしはなたちはなまかたけなくになと郭公聲たえぬらん

古今秋上 六帖の月  
月みればちゝにもものこそかなしけれ我身ひとつの秋にはあらねと

古今秋下 六帖  
うゑしとき花まちとほに有し菊移ふ秋にあはんとやみし

古今物名  
のちまきのおくれて生るなへなれとあたにはならぬたのみとそきく

古今庄二  
ねになきてひちにしことも春雨にぬれにし袖とゝはゝこたへん

同貞備  
もみちはを風にまかせてみるよりもはかなきものは命なりけり

【備考】

B 「為忠卿」「垂槐藤判」C 「元始」↓14大江千里①BC参照

(24) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】『冷泉家時雨亭叢書 第六十六卷 資經本私家集 二』(二〇〇〇)

一年六月、朝日新聞社) / 写一帖 / 外題「千里」 / 内題ナシ

【翻刻】

A (外題下)

十二枚〇

B (序)

臣千里謹言去二月十日參議某朝臣

傳 勅曰古今和調多少献上臣奉

命以後魂神不安遂臥筵以至今臣

儒門餘孽側聽言詩未習艷辭不知

所為今臣僅扱古句構成新哥別今加

自詠古今物百廿首悚恐震捕謹以

拳進豈求驟目欲解頤千里誠恐懼誠謹言

寛平九年四月廿五日

【備考】残欠本

(25) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】『冷泉家時雨亭叢書 第七十三卷 擬定家本私家集』(二〇〇五)

年十二月、朝日新聞社) / 写一帖 / 外題「大江千里集」 / 内題ナシ

【翻刻】

A (表紙中央)

・一見了

B (序)

臣千里謹言去二月十日參議某朝臣

傳 勅曰古今和調多少献上臣奉

命以後魂神不安遂臥・以至今臣

儒門餘孽側聽言詩未習艷辭不知

所為今臣僅扱古句構成新哥別今

加自詠古今物百廿首悚恐震捕謹以

拳進豈求驟目欲解頤千里誠恐懼誠謹言

寛平九年四月廿五日

15 素性「書目15・大成1-24、25・新編増補」

寛元三年十二月十日

〈奥書・刊記等アリ〉

(1) 宮内庁書陵部 (五〇六一八)

【マイクロ】二〇―四五―一―二／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「素性法師集三」／内題「素性集」／三十六人集のうち

【翻刻】

A (素性集卷末)

院御本 行家朝臣筆 書寫之

建長三年七月 日

【備考】

A「院」：後嵯峨院。承久二年1220〜文永九年1272。寛元四年1246讓位。

「行家朝臣」↓4大伴家持(7)A参照

(2) 宮内庁書陵部 (五二〇一―二)

【マイクロ】二〇―四八―一―三／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「素性法師集 三」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】

A (素性集卷末)

以 前藤大納言為家本

書寫之

(3) 国立歴史民俗博物館高松宮家本

【マイクロ】二一―三〇―一―三／紙焼写真C二八七／写一帖／外題「哥仙家集素性 猿丸」／内題「素性集」／「哥仙家集」のうち／猿丸集・家持集・業平集と合

【翻刻】

A (素性集末尾)

以院御本 行家朝臣筆 書寫之

建長三年七月日

【備考】

A「院」「行家朝臣」↓15素性(1)A参照

(4) 長野市旧真田家本 (二〇)

【マイクロ】二八―二一―二―三／紙焼写真C九七二／写一冊／外題ナシ／内題「素性集」(首題)・「素性集」(扉題)／三十六人集のうち

【翻刻】三十六人集全体↓2柿本人麻呂(5)A参照

(5) 神宮文庫 (三／二〇四)

【マイクロ】三四―一三四―一〇―一四／紙焼写真C四六四九／写一冊／外題「素性法師」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】

A (素性集巻末)

飛鳥井大納言本ニテ見合也

慶長元年

也足子

B (同)

一校畢

C (同・奉納印)

天明四年甲辰八月吉日奉納

皇太神宮林崎文庫以期不朽

京都勤思堂村井古巖敬義拜

【備考】

A 「飛鳥井大納言」：慶長元年1596に該当者ナシ。飛鳥井雅春は天正十二

年1584に権大納言を辞し、文禄三年1594没。飛鳥井雅庸(↓2柿本人麻

呂(9)A参照)は元和元年(慶長二十年)1615任権大納言。

「也足子」：中院通勝↓3山辺赤人(4)参照

B 「村井古巖敬義」↓2柿本人麻呂(6)参照

(6) 名古屋市蓬左文庫(一〇六一三七)

【マイクロ】四八一―二―一―一九／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「素

性集」／内題「素性集」／三十六人集のうち

【翻刻】三十六人集全体↓2柿本人麻呂(8)A参照

(7) 陽明文庫(近一サー六八)

【マイクロ】五五―七〇九―一―八／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「家持

赤人 業平／遍昭 素性 友則」／内題「素性集」(首題)・「素性」(扉

題)／三十六人集のうち／家持集・赤人集・業平集・遍昭集・友則集と

合

A (素性集末尾)

以院御本 行家朝臣筆 書写之

建長三年七月日

B (同)

一校畢

【備考】A 「院」行家朝臣」↓15素性(1)A参照

(8) 陽明文庫(近一ニ二二一)

【マイクロ】五五―七一一―五―二―九／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「素性

法師集」／内題「素性集」(首題)・「卅六人家集」(筆者目録)／「卅六

人家集」のうち

【翻刻】卅六人家集全体↓2柿本人麻呂(9)A参照

A (筆者目録)

素性 秀賢朝臣

B (素性集末尾)

本云以 院御本 行家朝臣筆 書写之

建長三年七月 日

【備考】

A 「秀賢朝臣」 ↓ 2 柿本人麻呂(9) A 参照

B 「院」「行家朝臣」 ↓ 15 素性(1) A 参照

(9) 神宮徴古館 (三九九三)

【マイクロ】六二―二二―一五 / 紙焼写真C三七四八 / 写一帖 / 外題

「素性法師集」 / 内題ナシ / 三十六人集のうち

【翻刻】

A (巻末)

行家朝臣筆

以院御本 書写之

建長三年七月日

【備考】

A 「院」「行家朝臣」 ↓ 15 素性(1) A 参照

(10) 東奥義塾高等学校

【マイクロ】六七―一―一九 / 紙焼写真C三〇七二 / 写一冊 / 外題「素

性集 九」 / 内題「素性集」 / 三十六人集のうち

【翻刻】

A (巻末)

以本云院御本行家朝臣筆書寫之 建長三年七月日

【備考】

A 「院」「行家朝臣」 ↓ 15 素性(1) A 参照

(11) 京都女子大学図書館吉沢文庫 (Y W 九一・二〇八―K―二)

【マイクロ】二四二―五八―三―三 / 紙焼写真ナシ / 刊一冊 / 外題「哥仙

家集素性家持猿丸業平業平二 / 内題「素性集」 / 「哥仙家集」のうち / 猿丸集・

家持・業平集と合

【翻刻】歌仙家集全体 ↓ 2 柿本人麻呂(14) F、S も参照

A (素性集巻頭書入)

次第哥数三本同但互本所ノ違アリ下ニ標ス

B (素性集内題下書入)

古本同

C (素性集末尾)

以院御本 行家朝臣筆 書寫之

建長三年七月日

D (素性集末尾書入)

袖中巻廿 やよやまで山ほととぎすことつてんわれ世の中にすみわひ

ぬとよ此哥 / 猿丸か集にあり詞書あたりける女に物をいひそめてた

ものしけなき / 事をいふほとに郭公のなきければとあり

E (二冊目業平集巻末書入)

文化四年六月十八日校合畢

村田並《花押》

F (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

G (十五冊目中務集卷末書入)

文化五年七月廿五日全編校合畢《花押》

【備考】

C 「院」「行家朝臣」↓15素性(1) A参照

E 「村田並《花押》」「G」「花押」：村田春門↓2柿本人麻呂(14) 参照

(12) 大和文華館(三—三九二五)

【マイクロ】二五七—一五二—一—一六／紙焼写真ナシ／写一冊／外題

「哥仙集」／内題「素性集」〔首題〕・「素性集」〔目録題〕／「哥仙集」

のうち／敏行集・信明集・猿丸集・興風集・業平集・遍昭集・頼基集・

公忠集・宗于集・清正集・敦忠集・友則集・兼盛集・小町集・仲文集・

是則集・忠岑集と合

【翻刻】哥仙集全体↓6猿丸大夫(9) A参照

(13) ノートルダム清心女子大学附属図書館(B七二／一五—二)

【マイクロ】三三三—二六八—一—三／紙焼写真ナシ／刊一冊／外題「哥仙

家集素性  
家持猿丸 二二／内題「素性集」／「哥仙家集」のうち／猿丸集・

家持集・業平集と合

【翻刻】

A (素性集見返し書入)

よしより良因 もみつる すかけ やかたをの廐 山ぶし

B (素性集巻頭書入)

次第哥数三本同但(亘本所ノ違アリ下ニ標ス

C (素性集内題下書入)

古本同

D (素性集末尾)

以 院御本行家朝臣垂書寫之

建長三年七月日

E (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

【備考】

D 「院」「行家朝臣」↓15素性(1) A参照

(14) ノートルダム清心女子大学附属図書館(C一／三四—五)

【マイクロ】三三三—二七一—一—三／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「素性

集 三」／内題「素性家集」〔扉題〕・「本願寺本三十六家集」〔目録題〕

／「本願寺本三十六家集」のうち

【翻刻】本願寺本三十六家集全体↓2柿本人麻呂(17) AB参照

A (人丸集巻頭)

素性 十八枚 内白一枚 重色紙

(15) ノートルダム清心女子大学附属図書館(B七〇)

【マイクロ】三三二―二九一―一三／紙焼写真ナシ／刊一冊／外題「歌仙家集素性家持 猿丸 業平」／「歌仙歌集」のうち／猿丸集・家持集・業平集と合

【翻刻】

A (素性集末尾)

以 院御本行家朝臣筆書寫之

建長三年七月日

B (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

C (刊記右傍書入)

此書人は村田翁自筆なり 真頼

【備考】

A 「院」「行家朝臣」↓15素性(1) A参照

C 「村田翁」「真頼」↓2柿本人麻呂(18)参照

(16) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (H二〇七)

【マイクロ】三三二―二九五―一八／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「素性集」／内題「素性集」／三十六歌仙家集のうち

【翻刻】

A (素性集末尾)

一校了

(17) 島原図書館肥前嶋原松平文庫 (一三五―一六五)

【マイクロ】三五八―一四二―二二／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「素性集」／内題「素性集」

【翻刻】

A (卷末)

以 院御本 行家朝臣筆 書寫之

建長三年七月日

【備考】

A 「院」「行家朝臣」↓15素性(1) A参照

(18) 中田光子氏

【マイクロ】ナ三一四―一三／紙焼写真C六〇七三／写一冊／外題「歌仙家集 一」／内題「素性集」／「歌仙家集」のうち／人麻呂集・躬恒集・猿丸大夫集・家持集・業平集・兼輔集・敦忠集・公忠集と合

【翻刻】歌仙家集全体↓2柿本人麻呂(19) F、Hも参照

A (素性集見返し書入)

次第哥数三本同但且本所ノ違アリ下ニ標ス

B (素性集内題下書入)

古本同

C (素性集末尾)

以 院御本 行家朝臣筆 書寫之

建長三年七月日

D (五冊目、中務集末)

こは加茂季鷹校合せるところの藤原濱臣所蔵の

本にて今年文化元甲子五月五日校合畢 長《花押》

【備考】

C 「院」「行家朝臣」↓15素性(1) A参照

D 「加茂季鷹」「藤原濱臣」「長《花押》」↓2柿本人麻呂(19)参照

(19) 尊經閣文庫 (函P三七〇)

【紙焼写真】 C一〇五五二／写一帖／外題「素性集」(箱書)／内題ナシ

【翻刻】

A (箱書)

尊純法親王真翰

【備考】

A 「尊純法親王」↓2柿本人麻呂(9) A参照

(20) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】 『冷泉家時雨亭叢書 第二十卷 平安私家集 七』所収(一九九

九年十二月、朝日新聞社)／写一帖／外題「素性」／内題「そせい法し」

(見返し題)

【翻刻】

A (貼紙)

素性法師 墨付十二枚

(21) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】 『冷泉家時雨亭叢書 第二十二卷 平安私家集 九』所収(二〇

〇二年四月、朝日新聞社)／写一帖／外題「素性集」(首題)・「素性集」

(尾題)／内題ナシ

【翻刻】

A (卷末)

以前権大納言為家本

書写之

寛元三年十二月十日

《花押》

【備考】

A 「《花押》」…未詳。為氏(貞応元年1222～弘安九年1286)か。

(22) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】 『冷泉家時雨亭叢書 第六十五卷 資経本私家集 一』所収(一

九九八年二月、朝日新聞社)／写一帖／外題「素性集」／内題ナシ

【翻刻】

A (外題右傍)

・一見了

B (卷末)



素性法師

C (同)

建長四年六月自 院行家朝臣

賜之書進之以彼御本書留之本

令借請書写也人丸貫之等集

一具也

D (裏表紙右下)

永仁元年十書了

資經《花押》

【備考】

C 「院」行家朝臣」↓15素性(1)A参照

D 「資經」↓4大伴家持(1)B参照

(23) 国文学研究資料館 (ア二一三一二)

【原本】刊一冊／外題「哥仙家集」素性／猿丸二二 (合点は朱)／内題

「素性集」／「哥仙家集」のうち／猿丸集・家持集・業平集と合

【翻刻】

A (素性集巻頭朱書入)

次第哥数三本同但家本一所ノ違アリ下ニ標ス

B (素性集内題下朱書入)

古本同

C (素性集末尾)

以 院御本行家朝臣筆書寫之

建長三年七月日

D (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

E (刊記後書入)

以大坂江田氏古本并家本一校了

平入道法橋

明和第七月四日

兼誼《花押》

以猪苗代氏校本一校了只加僻案畢

甲斐權守賀茂

寛政十一年五月十二日

季鷹《花押》

右家集旧臘十五日從季鷹借受而書寫了

菟道上林

文政九戌三月八日

政義《花押》

【備考】

C 「院」行家朝臣」↓15素性(1)A参照

E 「平入道法橋兼誼」「菟道上林政義」↓2柿本人麻呂(24)参照

「甲斐權守賀茂季鷹」↓2柿本人麻呂(19)参照

(24) 国文学研究資料館 (ア二一四一二)

【原本】刊一冊／外題「哥仙家集」素性／猿丸二二／内題「素性集」／「哥

仙家集」のうち／猿丸集・家持集・業平集と合

【翻刻】

A (素性集末尾朱書入)

以一古本校合了

B (素性集末尾)

以院御本行家朝臣筆書寫之

建長三年七月日

C (中務集卷末朱書入)

以一古本校合了

嘉永五年八月廿九日

D (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

【備考】

B 「院」「行家朝臣」↓15素性(1)A参照

(25) 国文学研究資料館 (ア二一五―二)

【原本】刊一冊／外題「素性集」(朱)／内題「素性集」／「歌仙家集」

のうち／猿丸集・家持集・業平集と合

【翻刻】

A (素性集巻頭書入)

次第奇数／三本同／但亘本一所／相違アリ／下ニ標ス／

B (同・朱書入)

古本同

C (素性集末尾)

以院御本行家朝臣筆書寫之

建長三年七月日

D (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

E (刊記後朱書入)

文政五年午初秋七日校合畢 大橋長廣

【備考】

C 「院」「行家朝臣」↓15素性(1)A参照

E 「大橋長廣」↓2柿本人麻呂(26)参照

(26) 国文学研究資料館初雁文庫 (二二二五―二)

【原本】刊一冊／外題「哥仙家集」(素性)／内題「素性集」／「哥仙家集」のうち／猿丸集・家持集・業平集と合

【翻刻】

A (素性集巻頭書入)

宮内省本ニテ校合す／一首不足

B (素性集末尾書入)

合計九十九首

C (素性集末尾)

以院御本<sup>〔行家朝臣〕</sup>筆書寫之

建長三年七月日

D (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

【備考】

C 「院」<sup>〔行家朝臣〕</sup> ↓15素性①A参照

〈奥書・刊記等ナシ〉

(27) 内閣文庫 (二〇一・四三三)

【マイクロ】一九一―四三―五―三 / 紙焼写真C五二一〇 / 写一冊 / 外題

「素性集」(マイクロ不鮮明。調査カードによる) / 内題「素性集」 / 三

十六人集のうち

(28) 宮内庁書陵部 (五〇一・三〇一)

【マイクロ】二〇一―一六 / 紙焼写真ナシ / 写一帖 / 外題「そせい集」

／内題ナシ

(29) 宮内庁書陵部 (五一一・二)

【マイクロ】二〇一―二五―一―九 / 紙焼写真ナシ / 写二冊 / 外題「歌仙集

四」(表紙左・題箋)、「家持集 猿丸集 / 赤人集 / 業平集 / 遍昭集 / 素

性集 / 友則集」(表紙中央) / 内題「素性法師集」 / 「哥仙集」のうち

(30) 国立歴史民俗博物館高松宮家本 (H一六〇〇六い函二)

【マイクロ】二一九四―一―九 / 紙焼写真C六六二 / 写一冊 / 外題ナシ

／内題「素性法師集」 / 三十六人集のうち / 家持集・赤人集・業平集・

遍昭集・友則集・猿丸集と合

(31) 陽明文庫 (別置)

【マイクロ】五五―五四五―二―一 / 紙焼写真ナシ / 写一帖 / 外題「そせ

い」 / 内題ナシ / 「本願寺本三十六人集」(箱書)のうち

(32) 熊本大学附属図書館北岡文庫 (三三号赤二二二)

【マイクロ】二二四―一―四―五―五 / 紙焼写真ナシ / 写一帖 / 外題「歌

仙家集」 / 内題「素性集」 / 「哥仙家集」のうち / 業平集と合

(33) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】『冷泉家時雨亭叢書 第十四卷 平安私家集 一』所収(一九九

三年二月、朝日新聞社) / 写一帖 / 外題「素性集 古本 京極殿御書入在之」

(後補表紙)「素性集」(元表紙) / 内題ナシ

(34) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】『冷泉家時雨亭叢書 第十四卷 平安私家集 一』所収(一九九

三年二月、朝日新聞社) / 写一帖 / 外題ナシ / 内題ナシ

(35) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】『冷泉家時雨亭叢書 第八十四卷 古筆切 拾遺(二)』所収(二)  
○○九年二月、朝日新聞社) / 写一帖 / 外題「そせい集」 / 内題ナシ